

「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材に対する意見募集結果について

検討素材に対する意見募集結果概要

(1) 実施方法

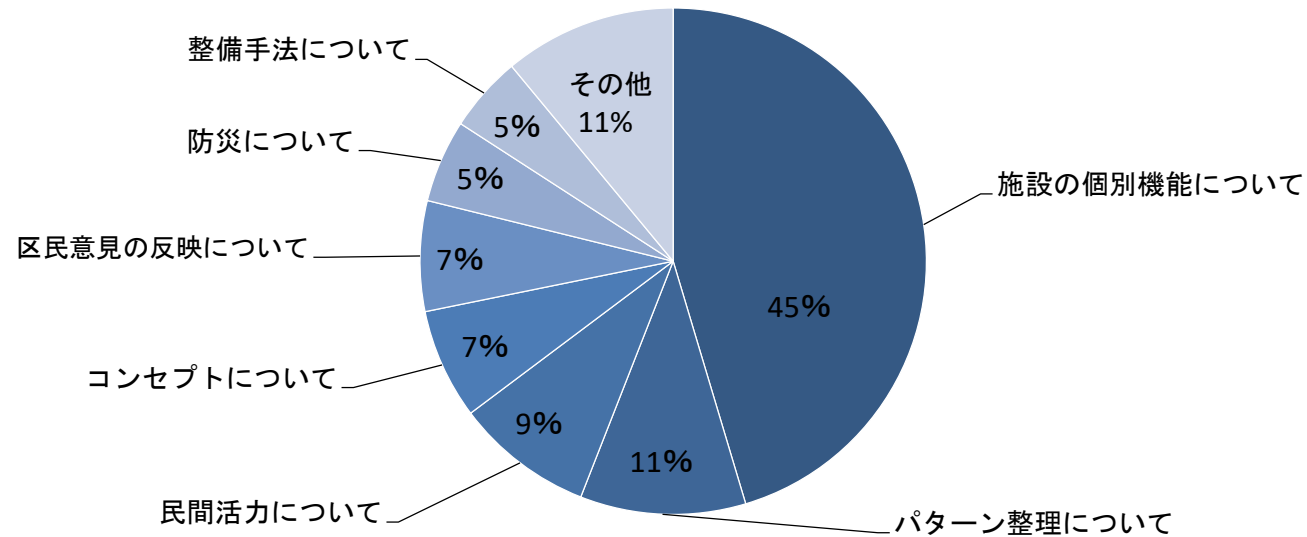
○募集期間：令和元年10月5日(火)から令和元年11月5日(火)まで

○周知方法：めぐろ区報(10/5号)、目黒区ホームページ、総合庁舎1階区政情報コーナー、4階区有施設プロジェクト課、地区サービス事務所(東部地区除く)、住区センター、区立図書館、目黒駅行政サービス窓口、区民センター内施設にて閲覧及び配布を行った。

(2) 提出者数

提出者	書面	FAX	メール	計
個人・団体	48	15	39	102
議会	3	0	0	3
計	51	15	39	105

(3) 提出意見の内容別割合



(このページは白紙です)

No	意見	今後の検討の方向
1	<p>「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」を拝読しての感想は、以下の通りです。</p> <p>1 健康に関するスポーツ施設の考え方の少なさ！</p> <p>以下を提案します。長寿国100歳の日本人の生き方で、大切なことは健康です。日中のバス利用者は、高齢者の多いこと！しかし、多くの方は、腰と背中が丸くなり、杖をついたり、キャリアカーを引いている方が8割くらいは、いるでしょうか。中年のころから、スポーツに親しんでいたら、もっと違っていると思います。その要因の一つとして、スポーツ施設の充実をお願いしたいところです。いまの屋外プールのところにスポーツ棟を建設していただきたい。そこにはプール(25mと50mの長さを変え、水も変えられる可動式プールの開設)トレーニング室の充実。体育館・小体育館の開設。多くのスポーツに関する自主グループが会場不足で、悩んでいることをご存知ですか？スポーツ棟に貸し出し可能な、小体育館あるいは、レクリエーション室を複数設けていただきたい。そこでは、講演会、会議等も可能とする。あるいは、健康棟として、栄養に関する、講義・調理実習を行う(調理室)。整形外科の医師と共存し、リハビリを行う。</p> <p>●プールについてももう少し、詳細に述べさせていただきます。前述した、可動式プールの直近のものは、武蔵野の森に建設されました。</p> <p>希望する理由</p> <p>○当初は、高度経済成長の時代で、レジャーが流行っていました。そこで、区内にもレジャープールが屋外に開設されました。因って、水深は、一般の50mプールより浅いです。又、当初は、気候の異変もなかったもので、外で、青空を見ながら家族と楽しむのは、最高でした。しかし、昨今の現状を見てください。年々異常気象は激しくなってきました。その結果、</p> <p>(1)水深が浅いため、気候の上昇とともに水温が高くなり、湯船で、泳いでいるのと同様。</p> <p>(2)木陰がない。</p> <p>(3)利用者が簡易テント持参で来る(区民体育祭の時だが、自己防衛のため)</p> <p>熱中症発症の恐れあり(一番大切な安心・安全に反する)。令和元年の体育祭秋季大会は、(45年の歴史を持つ中)初めて屋内プールで、開催しました。奥内は、狭く、開放感がないので、別な意味での神経を使いました。</p> <p>○屋内プールは、建設当初は、公認プールとして大会での記録も公認記録として提出できましたが、今は、不可です。当初は、1.30mあれば、大会時の飛び込みスタートもOKでしたが、今は、1.35mとなっています(1.35mなければ、飛び込み台設置不可)。時代と共に日本人の体格・国際化等々で、施設の条件も変化していきます。時代にあった後れをとらない目黒の施設としていただきたい。</p> <p>○かつての目黒の方針としては、各地区にプール1施設を開設し、身近で、健康のために水泳を普及することを目的とさせていただきました。これは、大変良いことですが、学校プールを地区プールとして、開放して下さっているため、水深が浅いです。この浅さでは、大会は不可能です。従って、区内に一カ所だけでも公認記録を出せる、正式な立派なプールの建設をお願いいたします。それは、時代にマッチした、可動式屋内プールを要望いたします。</p>	<p>スポーツ施設については、区民の健康増進の観点も含めて引き続き必要性を認識しており、新たな区民センターにおいても必要な機能だと考えています。整備する施設の規模、仕様等は、限られた敷地の中で、スポーツ施設以外も含めた複合施設全体のバランスを図りながら、新たな区民センターの未来像(コンセプト)の実現に向けて最適なものとしていきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>○プール利用者の昨今 区民センターは、ご指摘の様に道のりが良いためか勤め帰りの方々が、帰宅途中に泳いでから帰宅する方が多く(都でも奨励)顔なじみになってコミュニケーションをとり、お互い切磋琢磨し、同好の会を作り、当連盟に団体登録をしたグループが5団体あります。彼らはお互いに意見交換をしたり、食事をしたり共に大会に参加したり、生き甲斐作りの一助としています。又、大会に出場した方々の中には、記録を健康のバロメーターとして健康管理に役立っている方も多いようです。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの会員の発表会の場として 全国・都・区の奨励である総合型スポーツクラブの会員は、学校プールで、定期的に水泳練習をしています。その方々が、定期大会に出て、自分の泳力の発表の場としています。仲間と交流する場としての区民センタープールの開設を是が非でも開設して下さることを願います。</p> <p>2 区民センターの1階のどこかに姉妹都市である、気仙沼や石川県の特産物等の販売所が常設されていたら、特別なときだけでなく、今以上に友好都市の交流が可能だと思います。</p>	
2	<p>①すすめ方について 公募区民+各部門の専門家による審議会の設置を求めます。公募区民は、任期1年とし、継続を希望すればでき、しなければ追加募集をすることが望ましい。また、各部門の専門家会議もつくり、代表を審議会に送り、専門的な見地からの意見も聞けるように。また、全区民対象に進捗状況の説明と意見を聴く会の開催もお願いします。</p> <p>②目黒川の活用について せつかく川があるので、親水公園を設置してほしい(もし、川の浄化ができていなくても、それはそれで川のくさを体験できるのは重要であると考えます)。川の浄化が進んでいけば、川床(国土交通省の許可が必要)を設置し、花見など、ちがうみりよくをアピールできる。又、かつて目黒川は20を超える水車があったので、その復元をすることで目玉(シンボル)とすることもできると思われる。</p> <p>③旧栗山家長屋門の活用 すすめのお宿公園にある旧栗山家母屋の門部分が、倉庫に眠ったままになっているので、これを復元し、シンボルゲートとすることで、目黒区の文化に対するとりくみのイメージアップにもなる。</p> <p>④交通アクセスの対策 検討が進みつつあるバスのりば(コミュニティバス)と、今はないタクシーのりば、そして、車イス車両の乗降場(Pスペース)を設けることで、高齢者にもきやすいバリアフリーなものとなることできる。</p>	<p>新たな区民センターにおいては、目黒川はこれまで以上に大きな役割が期待されます。どのように活用すれば新たな区民センターの魅力を最大限発揮できるか、様々な可能性を検討していきます。</p> <p>また、区有施設見直しのリーディングプロジェクトである本事業の住民への説明や意見聴取、専門的な観点も含めた検討の進め方については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えています。</p> <p>交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策などのご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
3	<p>西部地区に住むため、区民センターに行く機会が、子どもが小学生だったころの子ども美術展以外、ほぼありませんでした。現在は青少年委員をしているので、区民まつりやティーンズフェスタの手伝いのため年に2度程度は訪れますが、何故こんな交通の便が悪く行きづらいところにあるのだろうと感じていました。とは言え、区全体で使う施設は必要ですし、その場に存続する以上老朽化による立て直しも必要ですので、新たな施設の考え方は賛成です。民間活力を存分に使って、相互に使えるものは共有しながら、無駄のないものを建てれば良いと思います。ただ、区有施設が一部地域に集中し、これほどまでに揃っている地域もあれば、最初の児童館である区民センター児童館ができ、建て替えが必要とされる45年経っても児童館ひとつさえ場所がないという理由で作れない地域もあります。区所有の土地面積を増やさないという考えならば、この機会に集中している土地を多機能化・集約化で整理し一部を売却して、必要な地域に場所を確保するという事も考えてはいかがでしょうか。</p>	<p>新たな区民センター整備に当たっては、ご意見のとおり民間活力を効果的に活用し、効率的に利用できる施設としていきます。</p> <p>また、区民センター見直しの契機である「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)では、区が保有する326施設について、財政負担軽減を図りながらも施設の快適性・安全性を確保し、区民ニーズの変化への的確に対応していくことを目的としていることから、区民センターを含めた区有施設見直し全体においても、施設の複合化等により低未利用となった敷地等については、財源確保の視点も踏まえながら進めていきます。区有施設全体の見直しの中では、地域の配置バランスの視点にも留意していきたいと考えています。</p>
4	<p>目黒駅、中目黒駅周辺に高層ビルが建設される等、都市化が進む一方に於いて、私たちの住む住居地域は無機質な建物による環境破壊が進んできている。幸いにも目黒区は基本構想の中に「水と緑豊かな環境を整備していく」と謳っています。第二種住居地域にある区民センターを見直していくにあたっては、当該区民センターが水と緑豊かな自然環境を守っていく目黒区のシンボルとなる様に希望いたします。</p>	<p>新たな区民センターについては、これまで以上に目黒川や公園に大きな役割が期待されることから、周辺環境にも配慮しながら、目黒川や公園など施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p>
5	<p>この度「『目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方』の策定にむけた検討素材」という資料を拝読しました。私は美術史学を専攻する者として意見を述べさせていただきます。同「検討素材」の内容でまず第一に気になる点は、これまで目黒区美術館が成し遂げてきた業績、役割がほとんど語られていません。これでは目黒区民が区民センターの今後を考える材料にはなり得ないと考えます。目黒区美術館は、近現代美術の展示、研究において美術史学会において高い評価を受けております。また、新たな区民センターの機能の方向性として「つくる つたえる」「多様な芸術文化に触れる機会を充実させることのできる空間」あるいは「区民が気軽に作品を発表し、また活動できるミニギャラリー、美術作品に触れることができるアートスペース」といった文言が語られています。しかし区民の美術を愛する心を育て、知識の高上を求めるのであれば一流の作品に出逢わなければなりません。そこでこれまで区美術館がおこなってきた一流品の収集、保存、展示を積極的に評価し、今後も継続できるよう配慮する必要があると考えます。さらに、展示の際の理解しやすい作品解説は、高度な研究がありその成果から分かり易く噛み砕くことで、見学者に藝術の良さ、真価を伝えうるものだと考えます。以上のような見地から、これまで目黒区美術館の学芸員の方々が多忙な中努力し果たしてきた役割、すなわち作品の収集、保存、研究、展示の実績を積極的に評価し、今後も高い能力を発揮できる予算と環境を区民センターの見直しの際意識していただきたいと存じます。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有し、区民の方々に親しまれてきており、新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
6	<p>私は目黒区美術館のボランティアをしております。目黒区民センターとセンター周辺の見直しは区民にとって良いことと思っておりますが、一点 気になるのは目黒区美術館のことです。目黒美術館の建物は少々古くてもメンテナンスをすれば充分と思っております。小規模といえども目黒区美術館は区民のみならず多くの人達に愛されています。良い展示も多く、落ち着いた施設の雰囲気、ボランティアで運営されているカフェテラスも含めこのまま永く続いて欲しいという声を聞きます。くれぐれも新たな建物の中の一部に吸収されるような事態にはして頂きたくありません。むしろ目黒川沿いの教育・文化・アートのエリアとして美術館を中心に緑や川と共存するデザイン的に優れた場としてご検討して頂きたい、と思っております。先日私はオーストラリアのパースという街へ旅行に行き参りました。パースは海辺の小さな街ですが、美術館、博物館、学校を中心にしてまさにアートが溢れている街でした。オリンピックを機にTokyoも世界から注目されていますが、街とアートの点で見ると、東京23区の中でも区の美術館を持っている所は数少ないです。東京で一番の名所と云える、目黒川沿いこそ、自然とアートを中心とした文化エリアの可能性のある一番の場所ではないでしょうか。自然と共存したアートエリアとなる、目黒区民センター一帯の見直しを是非ご検討頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。</p>	<p>区民センターの見直しは、「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)で区有施設見直しのリーディングプロジェクトと位置付けており、区有施設見直し全体を捉えながら、区が保有する326施設を適切に更新していくための道筋を立てる役割も期待されています。新たな区民センター整備に当たっては、「区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)でも示していますように、改修も選択肢として検討しています。躯体を維持しながら改善できる内容とその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく、将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮した上で、大規模複合施設としての効果を最大限発揮できる最適な整備手法を検討します。美術館についても、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かし、これまで以上に共有性や多様性を活かす役割を果たせるよう、複合施設全体のバランスの中で検討していきます。</p>
7	<p>区民センターは、よく利用します。新時代に合った見直しができますよう期待しています。以下に、箇条書きで要望事項をまとめました。</p> <p>(1)見直しに併せて、目黒区公認のゆるキャラを公募して、くまモンに負けないような目黒の活性化のための各種情報を発信してほしい。</p> <p>(2)区民センターへのアクセスについて、特に駒場、池尻方面からの区民はバス便が不便であり、東急バス、都営バス等に協議して、ぜひ利便性の向上を図ってほしい。</p> <p>(3)見直しのポイントは民間活力の導入であり、コンビニ、100円ショップのような店舗も入れてほしい。また、区民の談話のできる茶話室もぜひ設置してほしい。それに、児童、子供たちのための文房具屋さん、雑貨屋さん、子ども食堂などリトルワールドの夢空間を併設してほしい。併せて児童虐待防止の相談所もあつたらいいでしょう。</p> <p>(4)国連が定めたSDGs(持続可能な社会づくり)や防災、男女平等・共同参画のための教育拠点にしてほしい。屋根には、当然ながら太陽光発電設備を設置してほしい。</p> <p>(5)隣接の目黒清掃工場の余熱利用の温浴施設も併設して、課金して民間委託営業してほしい。街から消えつつある銭湯の復活、大きな富士山のタイル絵を眺めながら入れる施設にする。そこには、落語を楽しめる娯楽室も併設。目黒のさんまを楽しめる。</p> <p>その他 ワイワイ、うきうき、区民の憩いの場にできるよう、全国、世界に誇れるニュー目黒区民センターができるのを楽しみにしています。</p>	<p>新たな区民センターにおける民間活力は、ご意見にもある賑わいの場、いこいの場など、多様な活動に対応できる空間としていくことを目指す上での手段として活用していきます。</p> <p>交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
8	<p>目黒区美術館は収蔵作品も含めて、東京でも代表的な文化財で、もし無くなってしまふならとっても悲しいです。いつも楽しみにしているので、これからも残して欲しいです。これからの時代、日本人に必要なのは豊かさです。ダイバーシティの時代がやって来ます。子供達のためにも、文化施設は残していきたい、繋いでいって欲しいです。</p>	<p>新たな区民センター検討に当たっては、今後の社会を予測するうえで多様性の尊重も大きなポイントだと認識しています。美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。</p>
9	<p>(1) 建物・設備面の課題 各構成施設が複雑に混在している現状の再編、バリアフリー化とエレベーターの増設、耐震性の見直しなどが必要ですが、そのほか以下を希望します。就労、暮らし、育児相談などが出来る窓口、区民の作品展示などが自由に出来るオープンスペース、ごみ減量のためリサイクル・再利用に対応出来る設備(現在のふれあい館地下のエコプラザの事業を拡大する)、各施設間を自由に雨風に合わずに行き来できるような設計 * 目黒川の溢水が今後懸念されるので、今回の台風被害を参考に電気系統、図書館の蔵書、美術館の収蔵品などは地下部分でなく、浸水に耐える階に設置、保管する必要があります。また避難所機能の設置も検討してほしい。</p> <p>(2) 施設運営面の課題 貸室の利用率を上げるため、区として施設運営を一体化し一部を民間に業務委託する 児童館・学童保育クラブのスペース拡大 自由に使える学習スペースを図書館に併設(特に受験生のために) 食堂・カフェのスペース拡大と充実(民間に運営委託) 地元商店が出店出来るようなマルシェ(市場)スペースを作る</p> <p>(3) 都市計画における現行法規への適合について 区民センターに近接して建て替え中の目黒清掃工場は、用途地域の変更手続きをして一種住宅専用地の横に建設された経過があります。区民センターは清掃工場と同じく公共の利益に供する施設ですから、一部を高層ビルにしてマンションなり、商業ビルなりにして区の負担を少なくする方法はあると考えます。なにしろ住宅地のど真ん中に150メートルの煙突が建つのですから！！</p> <p>(4) 民間活力の活用について パターン2に賛成。管理・運営はあくまで区が責任を持つ必要があると考えます。</p>	<p>新たな区民センターでは、今日の区民活動を踏まえた上で、様々なスペースの利用用途を固定化せず、多様な用途に活用できる施設としていきます。あわせて、効率的な運営に向けて、民間活力の活用も進めていきます。なお、民間活力を活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確にし、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上に向けた検討を進めていきます。災害対策や都市計画上の課題への対応に当たっては、周辺環境への配慮が不可欠である一方、新たな区民センターのコンセプト実現においては財政負担も課題であることから、検討は様々なバランスを図りながら進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
10	<p>目黒区美術館の木々に囲まれた環境の中でゆったりと良い雰囲気の中で鑑賞できる現状を維持してほしい。建物の中にあるよりも独立して美術館があることが望ましいと考えます。</p>	<p>美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かし、これまで以上に共有性や多様性を活かす役割を果たせるよう、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
11	<p>基本的に民間活用のパターン1に賛成ですが、区民の意見が尊重され優遇措置が取られるべきだと思います。例えば、区民に設立運営の承認権を与え、区民が利用する場合は割引あるいは無料とする。</p> <p>* 区民センターに求められる機能が5つ挙げられていますが、重複している箇所があるので、以下のように大きく4つに分けて、民間と区がそれぞれ専有あるいは共有するスペースを複合的に保有・管理・運営する共存型が考えられます。</p> <p>1.WORK: 民営: オフィス、コワーキングスペース 区営: 区役所業務、税金、年金等の出張サービス窓口</p> <p>2.EAT/REST: 民営: レストラン、カフェ、ホテル、マンション、食品スーパー 区営: 区民が読書をしたり、コンピューターをしたり、音楽を聴いたり自由に利用できる憩いの場所</p> <p>3.LEARN: 民営: ギャラリー、講座 区営: 図書館、美術館、児童館、博物館、歴史館</p> <p>4.FUN: 民営: 週末使用しないスペースや野外スペースを利用したファーマーズマーケット 区営: コンサート・イベントホール、体育館、屋内プールとテニスコート、屋上を利用した庭園と野菜畑</p> <p>* 以下の条件を含む ○施設内はもちろん施設敷地内全て完全禁煙 ○全館Wi-Fi完備 ○給水スタンド設置 ○バリアフリー</p> <p>* 複数のビルを分散して建てるのではなく、敷地を最大限利用した複合・多目的ビルを一つに纏めることによって、空調やエレベーター等の共用、大きな空間の有効活用、且つ外壁等にかかる費用削減にも繋がると思います。</p> <p>* 老朽化している他の施設も含めて、区全域にわたる組織の簡素化を図るべく総合的見直しが必要だと思われます。全建物の査定はもちろんですが、運営上の効率化を目指し無駄のない適切な判断が下されることを望みます。</p>	<p>新たな区民センター整備に当たっては、効果的な敷地活用や効率的な維持管理のほか、ご意見にもあるように民間活力の活用を踏まえた運営面の効率化により多様な活動に対応できる空間を目指すなど、区有施設見直しのリーディングプロジェクトとしてその後の区有施設見直しのモデルケースとなることを意識しながら取組を進めていきます。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
12	<p>私くしは目黒区美術館のボランティアをして29年目になります。目黒は主人、子供も育ち思い出もたくさんある地でもあります。今は都合で引っ越しをし他の区で生活しておりますが美術館のボランティアは続けています。引っ越しを境に何故やめなかったのだろうと考えますと居心地の良さにあります。大きな木のぬくもりと温かみのあるテーブル、窓から射し込むこもれ木の陽、慌ただしい毎日から抜け出し椅子に腰掛けお茶を頂く、この一息が出来る大切な場所が目黒美術館です。区民の皆様足を運んで下さい、貴方もきっとファンになります。</p>	<p>美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かし、これまで以上にいい、やすらげる空間となるよう、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
13	<p>主旨を読ませて頂きました。区民センタービルの老朽化は使用させた者としても感じておりますので改築は賛成です。美術館は協会の一員として長年に亘り区展への出展で使用させていただきました。目黒区民としてこの様な施設を保有している事に誇りを持っています。美術館は今回のプロジェクトの意味を伝える大事な建物と信じています。目黒区の大切な財産としても保存を心から願っています。(協会一員)</p>	<p>美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。コンセプトの実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
14	<p>3つのパターンを想定して比較検討し、規模を拡大する程民間活力を導入できて、区の負担が小さくなるとしていますが、その根拠はなにか。民間活力導入の導入レベルと整備の規模は直接的な相関は無いはず。大規模な整備の方がメリットが大きいと見せて、そちらに誘導しようとしているように思われる。コンパクトな計画であっても民間活力を導入し、より事業が展開できている事例はたくさんある。公共事業は、往々にして規模が拡大していき、予算がふくらみ、最終的に自治体の持ち出しとなるパターンがよくある。整備の規模と、民間活力の導入の仕方は分けて議論すべきである。</p>	<p>民間活力には、取組全体の過程の中で、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討では、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、整備規模、経費規模、民間活力活用規模のバランスを見極めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
15	<p>A H29年6月策定「目黒区区有施設見直し計画」(以下「見直し計画」という)の感想・意見</p> <p>1 更新による財政の悪化 * 民間の場合には一般的には修繕積立金として財源を確保しますが、区の積立基金は過去の例でどの様な時に使われたかを教えてください。</p> <p>2 ニーズに即した対応 * 施設別の分類ではなく行動又は活動内容(例えばスポーツ、文化・芸術、青少年、高齢者、防災、バリアフリー、会議等)による分類での区の方針を明記しカテゴリー化するのが得策と思います。</p> <p>3 工程表 * 今後40年間で総延床面積15%の縮減とありますが、はたして40年後の姿が見えますか？ “無駄をなくす”観点から5～10年、10～15年後の見直しを簡単な施設から少しずつの縮減計画が必要と考えます。</p> <p>4 方針 * 区前提の財政悪化解消の解決策は区の基本方針として、例えば少子高齢化、施設転用・統合化、未利用施設・学校等の統廃合、民間活用等の観点からの案が必要です。中でも、施設転用・統合化、未利用施設の活用、民間活用等が重要方針と考えます。</p> <p>5 全体の進め方 * 「見直し計画」は難題が多く、区民の意見では表面的な資料にすぎません(やれば良い的)。今後も学識経験者を交えた住民参加の組織を立ち上げる必要があると考えます。</p> <p>B 「区民センター見直しに係る基本的な考え方」への意見</p> <p>1 施設機能の見直し * 施設別の分類ではなく行動又は活動内容(例えばスポーツ、文化・芸術、青少年、高齢者、防災、バリアフリー、会議等)による分類での区の方針を明記しカテゴリー化するのが得策と思います。参考例である複合施設の基本となる考え方です。 * 各施設の過去のデータから利用頻度別の一覧を公表、分析、評価すると共に今後のニーズに即した検討方針が基本的な考え方の第一歩と考えます。 * 民間活用を積極的に活用する為にまず実例の調査・研究の上、具体化に向ける。</p> <p>2 検討課題 * 学識経験者を交えた住民参加の組織を立ち上げる。 * 施設の整備上、多岐にわたる分野が多いので、行政改革で縦割り組織を見直し、新たな組織を編成する。</p>	<p>目黒区では、区有施設の建設、改修等に要する資金に充てるため、施設整備基金を設置して積立を行っています。過去には、スマイルプラザ中央町(第六中学校跡)、興津自然学園、目黒本町福祉工房の整備や、中央町保育園、南保育園の改修などのほか、さまざまな区有施設の修繕などの財源として活用しました。</p> <p>区有施設見直しは40年という長期にわたる取組であることから、区では、「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)の中で計画期間を10年ごとに区切り、区民センターの見直しは、その第1期に重点的に取り組むリーディングプロジェクトと位置付けています。</p> <p>従来、区では施設ごとに、それぞれの設置目的に沿った施設サービスを提供してきましたが、近年、そうした施設単位にとらわれない多様な区民活動が展開されていることから、区民センターの見直しでは機能に着目し、施設全体の空間の中で、新たな区民活動に引き続きしていく必要があると考えています。</p> <p>また、区民センターを含めた区有施設見直し全体においても、施設の複合化等により低未利用となった敷地等については、財源確保の視点も踏まえながら進めていきます。区有施設見直しのリーディングプロジェクトである本事業の検討における専門性や住民参加については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えてます。</p>
16	<p>東京都には区立美術館が少ないように思います。それを消さないように願います。</p>	<p>23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、限られた敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
17	目黒区美術館にお世話になっています。目黒の先生にお世話になっています。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
18	毎回の区展を楽しみにしています。美術館がある区ということ、皆さんから驚かれますし、良い所にお住まいですねとうらやましがられております。区展では、元気をもらい、とても充実した日をすごします。大切な場所です。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
19	協会一員の先生に習っています。是非残していただきたいと思えます。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
20	私は川崎市在住ですが、協会の会員で春の書作家協会展や九月の区展示に出品させて頂いております。目黒駅から権之助坂を下り、目黒川沿いの桜並木の遊歩道を歩いてだどり着く美術館は、都内でありながら周りには緑が多く、豊かな気持ちになります。この美術館に自分の作品を展示して頂くのはとても嬉しく、また誇らしく思っております。先日の区展では、全ての部門を拝見しましたが、どの部門もとてもレベルが高く見応えがありました。目黒区美術館あつての完成度の高さだと思えます。今後も美術館は存続させて頂くことを切望しています。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
21	年に2度、美術館を利用させて頂いておりますし、立派な美術館で芸術作品を拝見出来るのは誇りです。是非、存続させて頂きたくお願いいたします。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。

No	意見	今後の検討の方向
22	文化の香り高い目黒として誇る美術館の存続は大事だと思います。今までも春・秋と美術館を用い、書展・区展を行わさせてもらっています。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
23	協会のメンバーとして、初めて目黒美術館を見た時のことを今も忘れません。目黒川を右に緑の中にかわいい美術館があった。さすが、文化を大切にする目黒区だなあと納得した。目黒区が文化を大切にしていることの一つの象徴であるこの美術館は区民は大切にしたいと思う。私は大田区民だが、うらやましい限りです。	美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かし、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
24	書作家として展覧会の場がなくなるのはどうかと思います。ぜひ美術館は残して下さい。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
25	目黒区の住民として、芸術文化の拠点として美術館はとても大事である。失くそうと言う方の顔が見たいです。文化芸術存続の為、美術館は必要である。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。

No	意見	今後の検討の方向
26	目黒区美術館は目黒区が文化の香り高い区であることの象徴として貴重な位置を示している。美術館が企画する展示も区民の豊かな心を育むのによい影響を与えていると思うし、区民の文化芸術の発表の場としても有益である。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)の具体化においても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
27	「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」を読みました。大変抽象的で判りづらい内容でした。この中には美術館に関する項目がありませんでした。今後美術館はどうなるのでしょうか。美術館の存続を考えていないのかと、多く人が危惧を感じています。目黒区の芸術文化の高さを外部に知らしめるべく美術館は必要不可欠なものと思います。区民センターが新しく生まれ変わる事には諸手を挙げて大賛成です。その際、美術館の存続を忘れずに考えてくださいます様、お願い致します。	区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
28	協会の一員です。美術館には年数回お世話になっています。目黒で書道教室に通っており(毎週)書道作品等発表機会を与えていただき継続して使わせて頂けると幸いです。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
29	美術館の重要性 気軽に使える美術館はなかなか無いので、目黒区美術館は大事です。これを無くすのは大問題ですね。是非存続させて下さい。	新たな区民センターにおいては、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。

No	意見	今後の検討の方向
30	目黒区の先生の許で書のおけいこをしています。作品の発表の場があることで大変はげみになっています。美術館が存続されますことを希望します。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
31	私たちは年に二度目黒美術館を利用させて頂いております、東京23区あるうちに、区が美術館を持っているのは6か所だけと聞いております。日本は様々な世界に誇れる美術があります。一般の方たちがもっと利用できる様にアイデアを考えて(たとえば区民だけでなく)庶民に親しまれるなくてはならない美術館を是非残して頂けたら嬉しく思います。	23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館について、新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な施設となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
32	目黒美術館を利用させて頂いています。文化の中心として存続する美術館を是非存続して下さい。	美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。
33	よく利用させて頂いております。教養を深める意味でもとても役立っております。	美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。
34	美術館には良く出かけます。書展には何度も友人を連れてかよっています。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。

No	意見	今後の検討の方向
35	美術の鑑賞の場をのこしてほしい。区展、書作家協会展の場所としてのこして下さい。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
36	美術館を是非残して頂きたいと思います。芸術を通して区民の交流が出来れば良いかと存じます。	美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。
37	目黒区美術館は好きでよく訪れますし、区展等で利用させて頂いています。「目黒区民センターの見直し…」の書類を拝見しましたが、難しく具体的な事がわかりません。ただ、その中で美術館に関する事が見当たらずにその存続を危惧しています。23区内で美術館をもっている区は少ないと聞いています。目黒で生れ育った私にとって美術館の存在は誇りに思っています。本物の美術品を沢山ある事により、高い芸術性が養われます。香り高い洗練された芸術の発信地として、目黒区美術館の存在一層の充実を願います。区民センターの建て替えには賛成です。設備等も古すぎますしバリアフリーになっていない事もとても不便です。桜の季節のにぎわい、秋のさんま祭り等、東京でも有数の観光地ともなっている目黒区を一層住みやすい素晴らしい地域になる事を切に願います。	23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
38	美術館利用が多く、区展、書作家協会展ほか行事も多くて失うのは困ります。	新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
39	美術館、学識豊かな目黒区にとっては是非大事にしてほしい。	美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。

No	意見	今後の検討の方向
40	区外在住ですが、協会所属です。協会主催の講演会等で施設の利用をしています。施設の存続を強く希望します。	美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で引き続きその機能を継続しつつも、共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう検討していきます。
41	区民センター開設以来大変お世話になり、利用させていただいております。特に美術館とギャラリーは年間を通して活用しております。企画展も文化の香りを深めてくれています。なくてはならないものになっています。目黒区美術館の存在は重要です。ぜひ充実させていただきたく、お願い申し上げます。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
42	<p>1、多数の施設を維持し続けることの課題や類似の施設を統合し機能の発展充実を図る必要を理解したうえで、新たな区民センターの整備に向けた意見とします</p> <p>2、周辺の区有施設から「めぐろ学校サポートセンター・歴史資料館」「下目黒住区センター」は区民センターに吸収充実の検討を提案します。現在区民センターに併設しているテニスコートは現在の「学校サポートセンター・歴史資料館」のグラウンドに移行し、スポーツ・健康増進施設と住み分けをし、発展充実を図る。</p> <p>3、新区民センターの発展充実の為、機能の整理の方向性として、「学校サポートセンター」「社会教育センター」「男女平等・共同参画センター」「母子支援センター」などを配置し、大きな意味で社会福祉・社会教育・文化創造活動の(美術館の活動の整理を含む)拠点施設というコンセプトにすることを希望します。</p> <p>よって各種会議室(調理設備含む)も多様な利用が可能になる配置、施設を要望します。</p> <p>4、特に、「男女平等・共同参画センター」についてはこの施設の機能(性質上)当連絡会から新区民センター建設に関する委員会への参加をお願い致します。</p> <p>5、ホール施設は、500人規模の使いやすいものにし、平和公園、目黒川の環境を活かし、幅広い年代が集えて、財政的負担の軽減を図れる商業施設と共存する、新しい目黒区の顔となる区民センターの検討を希望します。</p>	<p>周辺区有施設の集約化は、区民センターの有する機能と親和性や共通点を整理したうえで、集約化を図った場合に相乗効果が見込まれるか等について検討し、限りある敷地の中での実現可能性を探っていきます。</p> <p>「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けた本事業の検討への区民参加については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えています。</p> <p>なお、区には、パーシモンホールに1,200席、200席のホールを、GTプラザホールには150席のホールを有しています。約400席の区民センターホールは、その中間規模として区民活動に適した規模だと考えています。そのうえで、ホール以外にもどのように多機能化を図ることができるか、複合施設全体での効果的・効率的な利用形態を検討し、全体のバランスを図りながら、新たな区民センターの未来像(コンセプト)の実現に向けて最適な規模としていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
43	<p>鉄筋コンクリートの建物は膨大なエネルギーを使って建てられています。躯体まで壊さないで改修することはできます。諸外国のもっと古い建物が活かされた街づくりをよく見てください。台風の強大化など、地球環境の問題は確実に顕在化しています。経済の効率だけで判断するのはもう時代遅れです。区政での英断を心から期待します。</p>	<p>新たな区民センター整備に当たっては、「区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材（令和元（2019）年9月）でも示していますように、改修も選択肢として検討しています。躯体を維持しながら改善できる内容とその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく、将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮した上で、大規模複合施設としての効果を最大限発揮できる最適な整備手法を検討します。</p>
44	<p>目黒区は今後、少子高齢化現象が進む事と思います。区は現在、待機児童減少の為、保育施設を増やしています。しかし、介護施設は大幅に不足となっています。将来を考え、小中学校の統合、廃止も視野に入れ、下目黒小学校を含め区民センター全体の改築を考えるべきです。具体的にはプール（幼児プールを含む）は全天候型とし地下化する。1階以上に小中学校を建設し体育館も併せ建設してはいかががでしょうか。プール及び体育館は、会員制のスポーツクラブを運営し区民には安価での利用可能とします。運営は民間企業に委託。別棟は文化的要素の複合ビルとして建設します。例えば、1階は展示スペースや情報・相談コーナーを設け区民が集う空間とし、飲食スペースや小規模店舗も置いてはいかががでしょうか。福祉教育関連の総合窓口を、それぞれ設置。職員の事務室フロア、会議室を備える。図書館、美術館を上層階に設けます。区役所の出先機関機能も配置します。隣接する「中目黒スクエア」、「めぐろ学校サポートセンター」等の仕組みを統合し、それぞれのスペースを確保する。跡地には、養護老人センター等介護施設を建設します。当然ながら免震構造を採用し、災害対応機能を整備。防災センターと連携した防災拠点機能や、飲料水の確保などを図る。物の断熱性能も向上させる。屋上へ太陽光発電パネル設置や、LED照明の設備や自家発電設備の設置。センサーによる照明制御、壁面緑化。電力のバックアップ機能の強化をし、受水槽設置による被災時の給水に役立てる。防災備蓄庫を設置し3～5日分（3,000人程度）の食料品などを保管する。目黒川沿いに遊歩道を作り緑の公園を併設する。公園後方に住宅棟を建築し、賃貸ビルとして収入を図る。可能な限り民間のノウハウを活用し区の財政負担は最小限とする。省エネの徹底、維持管理経費の縮減に繋げる。</p>	<p>下目黒小学校については、築55年が経過し、更新に係る検討が必要となる時期に入っていることをとらえ、一体的に整備することで学校側が新たな区民センターを有効活用できれば、教育活動のさらなる充実が期待できます。また、放課後においても子どもたちの豊かな人間性を養うための取組の可能性が広がり、さらに、学校が地域の拠点としての機能を併せ持ち、児童や地域の方々とのかかわりの場になることは、子どもたちの育ちを含めた地域コミュニティの形成の観点からも有益であると考えられることから、一体的な整備を検討するものです。下目黒小学校の一体整備や周辺施設の集約化は、関係部署とも十分に調整しながら、施設サービスの向上につながるよう検討していきます。</p> <p>民間活力の活用は、ご意見にあるような民間資金の活用の効果もありますが、施設サービスの向上や効率的な維持管理なども目的として、効果的に活用していきます。その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
45	<p>①民間活力導入の際、他区のPREなどに見られる高層化や等価交換、定期借地権での売却については負の遺産となる可能性が高く採用すべきではない。</p> <p>②区の財政負担を最小限にすることは重視する点であり、その手法として民間活力を最大限に活用する。</p> <p>※民間活力を誘導しやすくするため、用途地域変更も視野に入れる</p> <p>※民間活力を誘導しやすくするため、インキュベーション施設や新たな役割を持った施設を設置する。</p> <p>③区民センターに設置する施設に関しては、利用者、所管、管理団体の意見を充分聴取の上、スクラップアンドビルドを実行する事。</p>	<p>区の財政負担軽減は区有施設見直しの大きな課題であり、本プロジェクトでも課題の一つであると認識しています。ご意見を踏まえ、財政負担軽減やリーディングプロジェクトとしての取組の意義、スピード感、将来世代の負担の観点等も含めて、全体のバランスに留意しながら進めていきます。</p>
46	<p>区民の文化芸術活動がしやすい区民センターにしてほしい。</p> <p>☆パーシモン大ホール、小ホールがあるので、400名前後の大きさのホール、品川区の平塚ホールのようにホール併設された打ち上げスペースもあると良い。</p> <p>☆区民団体が使いやすい広さの現在の地下ギャラリー程度のギャラリーが必要。</p> <p>☆区民展ができる程度のギャラリーが必要だと上記ギャラリーは大きいギャラリーを区切って使えるようにしてもらっても良いと思う。</p>	<p>区には、パーシモンホールに1,200席、200席のホールを、GTプラザホールには150席のホールを有しています。約400席の区民センターホールは、その中間規模として区民活動に適した規模だと考えています。そのうえで、ホール以外にもどのように多機能化を図ることができるか、複合施設全体での効果的・効率的な利用形態を検討し、全体のバランスを図りながら、新たな区民センターの未来像(コンセプト)の実現に向けて最適な規模としていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
47	<p>I 現地改築案</p> <p>1 敷地全体のかさ上げ(該当ページ:p4) この一帯は「目黒区水害ハザードマップ」によれば、氾濫時に2メートル程度の浸水が予想されるので、下目黒小学校部分を含め全体を人工地盤としてかさ上げする。このため屋外プール、テニスコート等も新設する必要がある。</p> <p>2 電気・機械設備の地上化(該当ページ:p9) 施設の非常用電源・蓄電池を含む電気・機械設備を地下でなく、地上部分に設置する。いつ起こるか分からない目黒川氾濫を考慮し、この部分の工事を先行実施する必要がある(早ければ早いほどよい)。</p> <p>3 アクセスの改善(該当ページ:p7, p8) 「目黒通り」と「山手通り」は大災害時に一般車の通行が規制され、また「新茶屋坂通り」は3年後、「目黒清掃工場」の再開に伴い混雑が増すことが予想される。したがって区道「三田通り」を活用し、コミュニティバス(目黒駅～厚生中央病院～恵比寿ガーデンプレイス～東京共済病院～目黒警察署～区民センター～目黒駅)を運行することは、地域の“買いもの難民”救済の意味からも必要である。</p> <p>4 一棟建てとする必要(該当ページ:p10) 高さ制限を考慮し、体育館、図書館、児童館、美術館などを含め単純な一棟建て(4階程度)とすることが望ましい。これにより各館で共通する、例えばホール、事務室、駐車スペース、警備員室、電気機械設備などで可能な限り統合できる。</p> <p>5 機能及び備品として加えるべきもの ①可能な限りの自家発電装置と太陽光パネルの設置、②大震災などで発生する可能性のある(通過者を含む)大量の“帰宅困難者”を受け入れるためのスペース、備品及び消耗品の備蓄、③屋上ヘリポート、④ドローン置き場、⑤ゴムボート(目黒川氾濫時に活用)</p> <p>6 その他意見 区民センターは目黒区の他の主要部分から離れ、交通等アクセスにも難がある。しかし目黒駅から比較的近く、廉価で利用できる所以他区民から人気は高い。その利点を生かし無理のないかたちで問題を解決していただきたい。</p> <p>II 移転改築案 目黒川東岸「田道広場」を上記案と同様かさ上げし、美術館を除く本館を一棟建て(機能等は同じ)で移転改築して、最終的に広場と入れ替える。これにより、費用と期間を短縮することができる。</p>	<p>当敷地は、目黒川に隣接するなどの地理特性から水害対策の観点も大切であると認識しています。検討に当たっては、周辺環境にどのような影響を及ぼすか等も考慮する必要があると考えています。</p> <p>交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p> <p>新たな区民センター整備に当たっては、敷地を効果的に活用し、施設規模を活かした効率的な運営を目指していきます。</p> <p>なお、目黒川をはさんだ田道ふれあい館及び田道広場公園の敷地は、目黒清掃工場還元施設用地として、東京都から無償貸付を受けている用地です。周辺施設に係るこうした諸条件等も踏まえつつ、可能性や実現のスピード感を踏まえた検討が求められると考えています。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
48	<p>1 施設全体のバリアフリー化およびプール設備の徹底したバリアフリー化を実現してほしい。プールの更衣室は、南部地区プールのように重度の障害児者が介助者と一緒に利用し着替えができるものを設置してほしい。また、軽度の障害児者は広い多目的更衣室(ベッドや便器付)よりも、本人・介助者の着替えができる程度の省スペース型更衣室が複数用意されているほうが、多目的更衣室満室のためプール利用を断念することも減少するので有り難い。省スペース型更衣室は、例えば体格のよい未就学男児と母親と一緒にプールを利用するシーンや、トランスジェンダー(性同一性障害)の方にも必要とされているのだと思う。利用に際し不公平感や躊躇が生じるようであれば、利用対象者を限定せずにご利用を徴収して一般公開し、福祉的な証明書提示で減額等の措置も合わせて検討いただき、ぜひとも実現に向けて熟考して欲しい。また、南部地区プールのような入水スロープは、ユニバーサルデザインとして全ての人の利用しやすさにつながるので、前向きに設置検討していただきたい。</p> <p>2 施設内のカフェ、販売店、ドリンクスタンド、清掃業務等に障害者雇用を促進してほしい。目黒区内には軽度知的障害者が働く場や、それをサポートする仕組みが不足していると思われる。消費税も最低賃金も上昇する中、障害者にも確固とした働く場を目黒区内に築き上げ、障害者の生活向上につなげてほしい。また、区民センターのような公共の場で障害者が懸命に働く姿を区民が目にする事で、障害理解も広がると思う。公共施設内で障害者の働く場を創出してほしい。</p> <p>3 区内作業所の自主生産品を販売するコーナーを作してほしい。福祉の店さんまるしえのような自主生産品を常時販売できる場所をつくってほしい。特に生活介護施設に通う障害者にとっては、自主生産品の売上高は工賃に直に影響しており、重度障害者だとしても働く喜びや対価を得る喜びは人間として必要であり、生きる力につながるものだと思う。自主生産品の販売機会拡大のためにも場所を提供してほしい。また、販売コーナーは区役所販売のように、通所施設の障害者が行えば、区民とふれ合うことで障害者理解促進の場としての位置づけになると期待できる。</p> <p>4 知的障害者と健常者が交流できるような共同住居を作してほしい。四中跡地に障害者グループホーム沙羅の家清水が完成したが、将来的にも、まだまだ知的障害者の住居は不足している。区有施設や区有地見直しの際には、知的障害者が住み慣れた目黒区に親なき後も暮らしていけるような居住の場を作してほしい。そのサインは、これからの共同社会を目指すべく、例えば、知的障害者と学生が同敷地内に住めるようユニットを作り、交流やボランティアにつなげるような共同住居の建設を提案したい。また、住居が整備されたとしてもスムーズに入所できる障害者ばかりではないので、日ごろから環境変化に対応できる力や、自立した生活・社会的マナーを身に着ける訓練の場として、短期入所の床も併設してほしい。</p> <p>5 福祉避難所として迅速に開設できる場を平常時から準備しておいてほしい。台風19号で被害を受けた埼玉県川越市の某障害者施設の入所者20名が避難所を3か所も移ることになったと報道されていたが、それ以前に、福祉避難所の開設に日数がかかることも、障害児者にとっては大きな問題である。現在、区内の福祉避難所として指定されている施設は、日中活動で使用されている施設ばかりなので、例えば区民センター内に多目的な大ホールや会議室を作るのであれば、そこを緊急時の福祉避難所に設定し、迅速な解説と安定した運営を目指してほしい。また、目黒川の水害も考慮し、建物は可能な限り高層化していただきたい。</p>	<p>現区民センターは、社会状況の変化とともに設置当初と求められる諸条件も異なっており、バリアフリー対応も課題の一つです。また、新たな区民センター検討に当たっては、今後の社会の変化に対応するうえでも多様性の尊重は大きなポイントだと認識しています。こうした点に留意しながら、誰もが思い思いに過ごすことのできる空間づくりを目指していきます。</p> <p>また、昨今の災害の状況等を踏まえ、新たな区民センターでは防災機能充実の観点も不可欠だと認識しています。防災対策としてどのような機能を有するべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策等に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>6 障害者団体の拠点となる場所を提供してほしい。当団体は、障害者団体として創立60年を超え、会員も年々増加し区内最大の障害者団体として成長しているが、これまで会の連絡先(住所・電話番号)は会長の個人宅となっており、会長が代わる度に会の連絡先変更を重ねてきた。個人情報保護の観点でも、一個人宅を拠点とするのは現代では危険性が高いと感じているが、区内で事務所を借りることは会の財源的にも難しいところである。会はこれまでに区内の福祉や特別支援教育について、区と様々な連携をとり協力をしながら目黒区の発展に貢献してきたと自負している。今後も区内でより良い福祉活動を継続するために、当団体の拠点、もしくは他の障害者団体(懇話会等)と共有の拠点となるべく場を、区民センター内に提供していただけないだろうか。</p>	
49	<p>今後「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」を作成されていかれるそうですが、下記の二点ぜひ御検討ください。</p> <p>①子供に関する場所、設備等を大幅に増やしてほしい。例. 子供の広場、プレイパーク(碑公園等は様々制限、禁止多く楽しくあそべない)、子供の食堂、囲碁館、子供専用の建物等。子供によく知らせて、休日を含めよく利用出来るようよろしくお願いします。</p> <p>②災害センターを作ること(目黒川に備えて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦近隣の中目黒スクエアの設備等を回収して入れる。 ◦普段から災害に備えて情報を集めておく ◦区のことなどいつでも対応できる専用職員を複数配置しておくこと 	<p>子どもも含めて誰もがのびのびと、思い思いに過ごせる空間としていくことが新たな区民センターに求められているものと考えており、実現に向けて、空間の共有や多機能化等を進めていきます。</p> <p>また、昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターでは防災機能充実の観点も不可欠だと認識しています。防災対策としてどのような機能を有するべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
50	<p>私は区民センターより徒歩で8分くらいの所に在住しており、センターを日常的に利用して感じていることを述べる。主に使用しているのは、図書館、トレーニング室、中小企業館大ホール(各種公演)、各種勉強会のための会議室(社会教育館、消費者センター等)、美術館等である。</p> <p>—小さな会議室は、それぞれ管理が異なるようであり、これらを統一して使えれば、キャンセルや空きがあった場合にも、ひとつの窓口で予約でき、有効に利用できるのではないかと。</p> <p>—大ホールは有料のイベント、無料のイベントが様々に行われ、よく参加している。ところが、いつどのような公演があるのか、受付に聞いても知らないという。パーシモンホール、GTプラザのように、毎月の公演スケジュールを公表すれば、参加者も増える。</p> <p>—美術館は原則無料と有料の2つの建物がある。実際にこれらを見に来ている人はあまり多くなく、2つの建物を統合、縮小して運営していった方がいいのではないかと。</p> <p>—トレーニング室は、設備も新しく、非常に廉価で使いやすく、利用者も多いが、近隣の民間スポーツクラブの利用料が月1万円以上であることを考えると、区の費用負担が大きいのではないかと。民間施設の経営状況なども参考にしてほしい。</p> <p>—目黒区の図書館は気楽に利用できるが、どこも特色がなく、中途半端な感じがある。千代田区等のリッチな図書館運営は参考にできないが、横浜市、川崎市等では、一部みられているように、ターゲットや分野を何かに特化した図書館作りを考えてもいいのではないかと。</p> <p>—都内では様々な公共複合施設が作られている。区民センター再構築に最も参考になりそうなのは、東池袋にある豊島区の施設ではないかと。一つの建物に、複数階の図書館、あうるすぽっとという演劇施設、そしてその他のテナントが入っている。図書館、大ホール、美術館、会議室、児童センター、関連ある民間テナントなどをひとつの建物に設置できれば、参加や準備、運営もやりやすく、公共緑地も大きく確保でき、民間資金も利用できる。</p>	<p>従来、区では施設ごとに、それぞれの設置目的に沿った施設サービスを提供してきましたが、近年、そうした施設単位にとらわれない多様な区民活動が展開されています。会議室などの貸室についても、機能に着目し、効率的に運営していくことで、区民センター全体で新たな区民活動に引き続きしていく必要があると考えています。各機能へのご意見については、効果的な敷地活用や効率的な施設配置を図る中での参考とさせていただきます。</p>
51	<p>1 今後の策定に向け 区が主体となり、民間の利用者と共に考え合う場を持ち進めていくことを望みます。</p> <p>2 21ページ ②ホール棟について 中規模(客席数600～800程度)ホール尚かつ幅広い芸術作品(舞台や音楽)に対応可能なホールを要望します。</p>	<p>区には、パーシモンホールに1,200席、200席のホールを、GTプラザホールには150席のホールを有しています。約400席の区民センターホールは、その中間規模として区民活動に適した規模だと考えています。そのうえで、ホール以外にもどのように多機能化を図ることができるか、複合施設全体での効果的・効率的な利用形態を検討し、全体のバランスを図りながら、新たな区民センターの未来像(コンセプト)の実現に向けて最適な規模としていきます。また、「区有施設見直し計画」(平成29年(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けた本事業の検討における利用者との意見共有等については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
52	<p>目黒区美術館も「目黒区民センター見直し…」の区域にはいつていますが、できれば、今の美術館の建物は存続させて頂きたいと思ひます。美術品を展示するだけが美術館ではありません。美術館の建物、そこへのアプローチ、展示室、ティールームなども大きな要素なのです。目黒区美術館の建物は見に来て下さった方に「いいね！」とよく言われます。私も「いいなあ！」と思ひます。こわすのはもったいないですね。最近ビルの一部にある美術館が増えていますが味気ないですね。人気のある美術館は建物プラス展示で人をひきつけています。</p>	<p>美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かせるよう、また、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
53	<p>武蔵野市に在住し、中目黒に勤める者です。目黒区民センターと、武蔵野プレイスをともに利用しています。武蔵野市プレイスは、市の中で文化的施設が無く、開発の遅れている場所にできました。駐輪場だったあたりだと記憶しています(墓地だったかも…)。区民センターは現在ここに存在しています。それも目黒川の美しい桜の中に。図書館も、美術館も、スポーツ施設も併設している。どうぞそれぞれの施設が規模のおそまつにならない様願ひます。できれば東京23区の実美術館として世田谷美術館のように定期的に大きな展覧会を開いてもらえる様なレベルをめざしていただけたらと思ひます。武蔵野プレイスをお手本にするにはおそまつです。スポーツ施設の民間への運営委託はよくみかけますが、実際に現場で働く人(アルバイト?)の教育が不十分なところがときどきみうけられます。「公的施設で働くのにその態度はどう？」と。入札の前に条件としてつけられるといいですね。</p>	<p>ご意見の施設、事例も含め、他自治体の様々な複合施設の調査・研究を進める中で、区民センターという大規模複合施設という特性を踏まえながら、新たな区民センターの未来像(コンセプト)実現に資すると考えられる要素を取り入れていきます。</p>
54	<p>リーディングプロジェクトとあるが、目黒区の姿勢、民度が試される事業と位置づけられる。総合的視野に於ての計画ではあるが最も重要な「安心して住める」ための視点を強化して取り組んでほしい。 ・用地がないと昨年の区長との懇談会で返答をいただいた児童相談所など「助け」の拠点ともなつてほしい。</p>	<p>「区有施設見直し計画」(平成29年(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けた本取組に当たっては、さらなる安心・安全の充実や、将来にわたり区民の活動水準の向上に資する空間とすることを目指していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
55	<p>【社会の分断化への“かすがい”となる施設に】 第2章のコンセプト「(仮)未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」“できる”が広がる創造空間、が楽観に過ぎる印象を持ちました。現実的な未来予測として経済格差の拡大、生活課題を抱える人の増加、視点の卑小化や排他化の進行、等を念頭におくべきと考えます。「将来にわたり区民のライフスタイルや価値観、多様な世代でのライフステージの変化」には、個人では解決困難な生活課題を含め、社会の分断化をつなぎとめる“かすがい”となる施設となることを希望します。</p> <p>【「人材の奪い合い」に先手を】 「民間活力の活用」は、営利企業を専門職の配置にかかる指定管理者制度の対象とすることは控えるよう強く申し述べます。理由は次の2点です。まず、指定管理者制度は、人件費の膨張に歯止めをかけることが目されていますが、学芸員や図書館司書などの専門職は、人件費の固定化や期限付雇用により安定した生活が維持されないと、優れた人材確保は困難です。区として経常支出の抑制ができて、特定の営利企業の収益計上と同時に区民サービスの質の低下が生じる状況は、納税者として受け入れられません。営利企業が採算性を確保するために事業の縮小劣化や撤退を行う事態は、介護保険事業や障害者福祉サービスの民間参入からも容易に想像がつきます。次に、専門性の高い人材の確保はどの自治体においても困難な現況にあり、この時点で目黒区が、就業者にとって魅力的な専門職の人材確保を打ち出せば、優位に立てると考えます。これはタイミングの問題です。「今」打ち出すことで効果を発揮し、後継者の中に埋没すると効果は半減します。以上のことを考慮に入れて、新たな区民センターの機能を活かせる運営体制を整備いただきたく思います。</p> <p>【自然災害が頻発する時代を迎えて】 区民センター一帯は、防災拠点としての役割も期待されます。ただし、水害による浸水のおそれがある地域でもあります。近隣で広域避難場所に指定されている中目黒公園一帯は、動線が事実上目黒川沿いを経由したものに限られ、たとえば護岸や橋の破損が起きると機能不全に陥ることも想定されます。これらを勘案し、①浸水時に避難できる高層の避難所、②火災時の広域避難所、③郊外と都心を結ぶ中継拠点機能、といった複合的な機能を盛り込んだ施設整備が必要と考えます。</p>	<p>新たな区民センターの未来像(コンセプト)は、今後見込まれる社会状況全体の中で、目黒区、ひいては区民センターの特徴を踏まえて設定しており、多様な人とのつながりによる新たな活動展開がなされることも期待しています。本事業全体においては、財政負担軽減は課題の一つですが、運営に係る民間活力は、あくまでも区民サービスの向上を目的として必要な専門性も含めて活用することになります。</p> <p>昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターでは防災機能充実の観点も不可欠だと認識しており、防災対策としてどのような機能を有するべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
56	<p>お世話になっております。区民としての意見になりますが以下宜しくお願い致します。</p> <p>①情報の発信方法について 検討素材は、総合庁舎及び区有施設、HP、区報で拝見できますが、新聞購読をしない区民も多い中、こちらから能動的にアクセスしないと情報を得ることができません。現在の情報収集を鑑み、Twitter やFacebookなどSNSを利用した発信方法のご検討をお願いしたいです。また今後は、近隣住民に対しての情報提供を特にお願いしたいです。</p> <p>②P.4 2区民センターの概要 (1)区民センターの概要等 ア施設配置の中には、①～④の施設が記載されています。その中に美術館が入っていませんが、「区民センター」とは①～④の施設を指すのでしょうか。敷地の概要の中には美術館は入っていますが、その区分があやふやでわかりにくいです。</p> <p>③P.10 施設運営面の課題整理まとめ 機能が重複しているのは、社会教育館・勤労福祉会館棟のみであり、特に体育館棟・図書館児童館棟・美術館は専門性が高いため、独立した機能の施設計画をお願い致します。また年間利用者数などの数字のみで施設存続の判断をしない様をお願い致します。例えば屋外プールは利用期間も短く、施設管理費用も多額だと思われませんが、都内には50m屋外プールも少なく、区民センターの夏の憩いの場として長年利用されて活気があります。家族で、または最近では外国人の人気施設として認識されつつあるようです。また図書館と美術館も区民にとって欠かせない施設です。今後経済成長を見込めない日本では、もうモノは必要とされていません。だからこそ、経験やコトを学べる施設の継続をお願いしたいです。私は目黒区美術館で子ども向けのボランティア活動をしておりますが、作品の研究調査、収集保存や管理に加え、特に教育普及活動はこの美術館の素晴らしい特徴の一つとなっています。地域の子どもや保護者の芸術に触れるきっかけを作りまたそれぞれが楽しむ様子が、私達の喜びや学びにも繋がっており、かけがいのない活動として今後も続けていきたいです。今後も美術館展示の為の独立した場所と、研究や保管また教育普及活動のための面積の確保をお願い致します。</p>	<p>ご意見の趣旨も踏まえ、本取組の情報が1人でも多くの区民に届くよう、より効果的な情報発信を検討していきます。資料中「敷地概要」に美術館は含めていませんが、P20やP34等で、本取組における美術館の取扱を示しています。従来、区では施設ごとに、それぞれの設置目的に沿った施設サービスを提供してきましたが、近年、そうした施設単位にとらわれない多様な区民活動が展開されていることから、区民センターの見直しでは機能に着目し、区民センター全体の空間の中で、多様な区民活動に引き続きいく必要があると考えています。美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
57	<p>総括的な事項、具体策等、羅列的に書きますので、適宜取り上げてください。</p> <p>1 具体化に当たって、関連する団体個人の意見を取り上げてください。区民は、この事業について、どのくらい知っているのか、十分調査し、周知の工夫をお願いします。また、気軽に意見を寄せられる機会づくりもしてください。フリーペーパーを駅頭に置くとか、電車内吊り広告とかー今後も随時、区民の意見を募集し続けてください。</p> <p>2 高層化が視野にあるかもしれませんが、日照権、ビル風のことも考慮してください、せっかく作った公園が日当たりが悪いのは、利用者の利益になりません。空が狭くなるのは、景観としても「文化的」でないと思います。ビルの乱立するまちは、目黒にふさわしくないと感じます。穏やかな印象の建造物を期待します。</p> <p>3 イまなぶのスペースに、「平和学習」の拠点を作ってください。そこがセンターとなって、各地域での「平和学習」の推進が行われることを希望します。</p> <p>4 あらゆる人に開かれたセンターであるために、事業を進める説明にも、「やさしいにほんご」・英語・ハンゲル・中国語等も、使用してください。</p> <p>5 センターに来るための交通手段の工夫をしてください。と同時に、センターの出張所的な施設を各地域にも設けて、区民の利便性を図ってください。</p>	<p>本プロジェクトにおいては、検討の各段階ごとに、より丁寧に区民の皆さまにご意見をお伺いすることで、地域に親しまれる施設づくりにつなげたいと考え、素案の作成前の検討の初期段階に「区民センターの見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)を作成・公表したものです。「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)の作成に当たっては、団体、個人問わず、検討素材に対していただいた多くのご意見を踏まえながら作成しています。その他にも、区民の皆さまの要望に応じて区職員が出向き、直接説明する「出前講座」も随時行っており、その中で意見交換等も行っています。区民センター見直しについては、今後も、適切なタイミングで、的確な方法による個人団体への意見の聴取等に努めていき、お知らせしていきたいと考えています。</p> <p>新たな区民センターにおいて、公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間を目指していきます。</p> <p>ご意見にある「まなぶ」での学習も含め、新たな区民センターでは、様々な活動に対応できる空間づくりを目指していきます。</p> <p>交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p>
58	<p>区民センター施設見直し案を読みました。全体に抽象的表現が多く具体案はみえませんが民間活力を活用という点だけが目立ちます。区の費用をかけたくないという意思が伝わってきます。特に気になる点は美術館の扱いについて、あまり注目されていないように見えることです。現在まで30年余の歴史ある美術館ですが、有意義な企画展や区民作品等、個々のグループ展などに貸し出して戴き、地域社会の芸術文化活動の拠点となり、格調高い目黒区の象徴的存在になっていると思います。更に今後の希望として所蔵品を常設展示のできるスペースなどが欲しいと思いますが、美術館の建て直しに民間資金を活用するということになりますと、スペースが制限され、従来の活動ができなくなる恐れがあり、本来の美術館の機能、使命が損なわれ、美術館の存在自体が軽視され弱体化してしまうのではないかと思います。都内でも美術館を持っている区は少なく、目黒区にはそれがあって、芸術文化都市であるという、目黒区民の自覚と誇りになっております。美術館の自立性、独立性を維持発展させてゆくことこそ目黒区が芸術文化都市である所以であると思います。</p>	<p>23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、「区展」や「子どもたち展」等創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有しており、新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限られた敷地の中、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
59	<p>「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」を拝見致しました。皆様のご苦勞がとても感じられました。五十年近くの築年数を経て、社会が変化していく中、誰もが使いやすい多機能な施設に変えてゆくのは必然的な事と思います。現在、未来へとフレキシブルでかつ、いこいの場となる事には大賛成です。目黒区に暮らし始めて二十年になります。子育ても終え、一人で美術館の展示品等に向かい合う静かな時間を楽しんでいます。これからの子供達も豊かな感受性が養われることを願います。資金面からタワーマンション等も視野に入っているのでしょうか。何十年後かを考えると荒涼とした景色が浮かぶのは考え過ぎでしょうか。他の方法は無いのでしょうか。</p>	<p>新たな区民センターの検討に当たっては、区民センターがこれまで果たしてきた役割を踏まえ、目黒川や公園を活かしながら、これまで以上にいこい、やすらげる空間づくりを進めていきます。</p> <p>施設整備に当たっては、周辺環境への配慮が不可欠である一方、新たな区民センターの未来像(コンセプト)実現に向けた財政負担も課題であることから、検討は様々な民間活力の活用を含め、バランスを図りながら進めていきます。</p>
60	<p>1. 施設について</p> <p>① コワーキングスペースの設置 多様な働き方に対応したコワーキングスペースや自習室があると良い。公共施設なら地域の高齢者や子育て世代も気軽に使える。図書館のスペースを転用することも一案。</p> <p>② 災害時の拠点としての活用 プライバシー確保のための備蓄。テント・段ボールベッド等を床下収納や倉庫等で保管する。災害後復興に向けた活動に大人が安心して出かけられるように、子供たちを預かる仕組みやスペースを確保する。避難者の血栓症予防等、健康維持のための動けるスペースを確保する。亡くなられた方の尊厳を守る安置スペースを確保する。</p> <p>2. 運用について 区民センターのスペースを近隣施設も活用することができるような道筋を立てていただきたいと考える。例えばホールや調理室のような、高齢者センターには無いスペースを高齢者センターも活用できると事業に幅も出て、参加する地域の方も学習の場や発表の場が広がる。施設間連携は互いの施設のコンセプトの実現、効果・効用の最大化の点でも、相乗効果があると考えます。</p>	<p>新たな区民センターにおいては、「はたらく」機能の多様化が必要だと認識しています。コワーキングスペースや自習室、専門機関と連携した相談の場の提供を行っている図書館の他自治体の事例なども含め、調査・研究していきます。</p> <p>昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターでは防災機能充実の観点も不可欠だと認識しており、防災対策としてどのような機能を有するべきか検討していきます。</p> <p>また、新たな区民センターは、未来像(コンセプト)を実現させるための機能の方向性にもあるように、他施設の利用者も含め、より多くの方々が様々な活動に利用できる施設となることを目指していきます。</p>
61	<p>○区有施設見直しが一斉に老朽化して更新時期を迎え、更新経費が多額になることから、維持・更新経費の抑制する必要があるといったコスト面からアプローチするだけでなく、人口減少社会や少子超高齢化など時代の変化とともに区民サービスの多様化なども考慮した結果、区有施設の機能(建設当時の施設用途や区民サービスが現在の区民が求めているサービスを補っていないところもある)の見直しが必要となってきたといった理由も明記すべきと考えるが如何か。</p> <p>○区民センター周辺の区有施設がプロット図のうち、「②中目黒スクエア」については標記の位置の関係(②の方に目がいきついで●を見落とす)で実際の位置と違い山手通りの向かい側あるように錯覚してしまう。見やすいように工夫が必要と考えるが如何か。</p> <p>○「平和記念事業」の記載があるのだから他の記載された事業と同様に写真を掲載すべきと考えるが如何か。</p> <p>○既存機能の融合という表現は、区民にとってイメージがつかない。「融合配置」をもっとわかりやすい表現に変更すべきと考えるが如何か。</p>	<p>区民センター見直しも含めた「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)では、区の財政負担軽減もさることながら、ご意見の区民サービスへの的確な対応という視点も大きな目的であり、本資料においても第1章「社会状況の変化」、「区民センター見直しの方向性」で説明しています。</p> <p>なお、ご意見を踏まえ、平和祈念事業については写真を、また融合化については脚注を加えました。</p>

No	意見	今後の検討の方向
62	<p>1 社会教育館の問題点 現在の社会教育館の場所は、山手通りに面しておらず、周辺には広い道路がないので、超高層建築の許されない地域として、高さ制限の範囲で現行の建物はできている。また、立地が目黒川の岸辺であり目黒川自体が潮入川ということもあり、昨今の気象条件では建物の1階までは水に浸かることを想定しなければならず、容積が複合施設向きではない。</p> <p>2 美術展の問題点 目黒区では、他区に誇れるような文化行事がない。唯一可能性のあるのが区展になる。区展は区民作品展の成長した形であり、将来にわたって開催するとすれば、それは目黒区の芸術文化行事になりうるし、目黒区美術館という施設がなければなりたない。芸術文化の作品展を開く場合、書や絵画等、個々の展覧会であれば、他区と同様、その作品等に見合うような設備を準備すれば済むが、目黒区の現行の展覧会の様に、書、絵画、手工芸、写真、等すべての芸術文化の合同展覧会(区展)を開くとすれば、どうしても美術館の規模と企画運営の力が必要になる。目黒区美術館にはそうした芸術文化の取り纏めと発展に寄与する能力がある。区展を目黒区の芸術文化として捉え、目黒区美術館を見る場合、社会教育館と同様、目黒川の氾濫は想定しなければならず、現行の地階ギャラリーは常に水没を考慮する必要がある。目黒区美術館を新たに構築する場合、地階を廃止、現在の地階の入り口まで容積を広げ、2階・3階及び4階の大部分を展示室にし、4階の残り部分と5階に収蔵庫を配し、収蔵庫の使い勝手を考慮し大型の物を運べるようなエレベーターも1機設置すべきである。1階は、ワークショップや、30～40人規模の多目的室として、常時椅子・机は簡単に配置できるように収納庫も併設し、最低限2部屋は必要である。収蔵品については、1階エントランスホールに展示されている鉄のオブジェは地震の際に非常に危険であり、平常は入館者のベンチ代わりとして使われ、芸術作品とは認知されていないようなので、これは撤去するか収蔵庫に保管すべきである。また、平和の鐘は由緒ある芸術作品なのに、平和の鐘の有難味が余り区民には届いていないように思われるので、収蔵庫に保管し、式典を行うときだけ収蔵庫から出して鐘撞を行うようにすべきである。</p> <p>3 区民祭りについて また、区民祭りで行われている、サンマの塩焼き配布は、近隣住民の犠牲(塩焼の煙で、当日は洗濯物を表に干せないのと、強烈なおいが室内に入らないよう窓を終日閉めなければならない)によって成り立っているの、この際(地球の温暖化の影響で、サンマの取れる時期がだいぶ後ろにずれこんで、区民祭りの時期に合わなくなっていることと、目黒駅周辺でサンマ祭りが実施され、マスコミには目黒駅の方の受けが良いようで、目黒区主催のそれは霞んでいる)縮小してはどうだろうか、もともと目黒のサンマは落語から出た話なので、当日は噺家を招いて「目黒のサンマ」を1席語って貰うと云うのはどうだろうか。</p>	<p>新たな区民センター整備においては、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえながら、最適な整備手法を検討していきます。</p> <p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、「区展」や「子どもたち展」等創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有しており、新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限られた敷地の中、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
63	<p>目黒区の区有施設のシンボルである目黒区庁舎は、旧千代田生命ビルを築後45年目に全面改修したもので現在も区民の誇りとなっており大切に使われています。区民センターの見直しに際しても、今後の区有施設見直しのモデルとするのならば、安易に全面建て替えなどの選択に走らず、既存躯体を改修、部分的に増築など環境負荷を極力削減する方向で多方面の英知を結集して今後の使われ方に応えてください。目黒区民が誇れる地球にやさしい施設再生のモデルを是非実践してください。特に美術館の建物は、住宅街に接しながらも低層で、乾式御影石張りの外壁やスチールサッシが今も美しくとても質の高い建築ですからこれからも大切に使い続けていくべき区有施設です。板橋区美術館も築40年の既存の躯体を再利用しこの春改修を終えています。</p>	<p>新たな区民センター整備に当たっては、「区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材（令和元（2019）年9月）でも示していますように、改修も選択肢として検討しています。躯体を維持しながら改善できる内容とその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく、将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮した上で、大規模複合施設としての効果を最大限発揮できる最適な整備手法を検討します。</p>
64	<p>●パターン③に消極的になる気持ち、分からないではありませんが・・・老朽化した建物／設備への対応が技術的にどの程度可能なのか、素人の私には分かりかねます。しかし、区の負担する『費用』の問題を、“額”ではなく“割合”で表現するのはアンフェアでは？「20年間の維持管理費＝約204億」から逆算すると例えば500億のプロジェクトで、民間から300億以上を引っ張って来る腹なのだと思いますが、それで「区民サービスが大幅に充実する」ほどの「都合の良い」成果が出せるのでしょうか？上手く行っても「民」の建物の中に「区」の施設が間借りしているような雰囲気になるのではと危惧します。</p> <p>●区民にとって“自慢”になる場所になったら、ウレシイですね。駅からの距離を考えても、便利さとか大きさとか、集客力などで勝負できるとは思えません。でも、私は目黒川沿いのマンションに住んで約50年、この間に目黒川、臭くなくなりましたよね。そして・・・桜。「人混みでウンザリ」とか言いつつ、話題にされることは嬉しいもの。その桜の時季を外せば、目黒川沿いの遊歩道は実に快適な散策路です。ところが、その遊歩道に広く面しているのに、テニスコートとプール（競泳用？）の無粋なこと！裏に小さいとは言え公園（庭園？）が有り、その奥に美術館まであることを、全くアピール出来ていません。これは勿体ない。工夫次第で「目黒区民の“自慢”の種になり得るのにな・・・」と思います。</p> <p>●文化／文化的施設。運営面でこそ『民間活力活用』を。区民サービスの面から利便性／機能性を追求し、新築すべき建物もあるでしょう。しかし区民センターにある建物全てを新築する必要はないではありませんか？たとえば美術館など、ピカピカになればそれで嬉しいというモノでも無いと思います。川沿いを散策していて思うのは、ちょっと立ち寄るカフェが「この辺りにあったらな」ということ。四角いプールをセクシィに改修し、プールサイド・カフェなんか、しゃれていると思いませんか？公園には彫刻作品などを展示して庭園美術館風にし、奥の区営美術館への誘導路とする。これらの施設は、少なくとも夜8時、9時までには使えなくてはなりませんから、運営には「民」の力を。これらは当然有料施設ですが、区民と同伴者は料金半額（含・飲食）。良い区に住んでると自慢できます。区営の美術館って、少ないそうですね。夜9時まで開いて、目黒の文化面の顔にしたらどうでしょう。ちょっと“通好み”の企画展など、メディアも協力してくれそうな気がします。以上、勝手なことを述べましたが、ただ、目黒川沿いに50年住んでいて、目黒は「春の桜だけじゃないんだよ」と言う気持ちを込めてお送りいたします。</p>	<p>民間活力には、取組全体の過程の中で、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討では、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、整備規模、経費規模、民間活力活用規模のバランスを見極めていきます。</p> <p>目黒川は区にとっても大きな魅力であり、新たな区民センターにおいても、その活かし方により区民センターの魅力をさらに高めることのできる要素だと考えています。新たな区民センターがより多くの方々に利用され、訪れていただくことのできる施設となるよう、目黒川や公園など施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p> <p>なお、運営に係る民間活力はあくまでも区民サービスの向上を目的として活用することになり、民間のノウハウを活かした運営を目指していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
65	<p>1 公的責任をはたし、利益優先の企業に丸投げをしないこと 区民センターは2万㎡をこす敷地面積に社会教育館、勤労福祉会館、体育館、ホール、図書館、児童館、美術館、プールなど様々な区有施設がある複合施設で、多くの区民が利用し区民の活動を支えてきた重要な行政サービスの拠点であり、区民の区有財産です。したがって、区民の健康増進と、地域コミュニティを支えるためにさらに発展させなければなりません。現在国は、「公共サービスの産業化」と「自治体戦略2040構想」を明らかにしています。本来利益を追求しない自治体の業務である「公共サービス」を「産業化」というもので、「公共サービス」を丸ごと民間市場に開放し、利潤追求のための市場創出を狙っています。公共分野の市場化、民営化によって経済成長をはかるという従来の成長戦略の発想に加え、それによって歳出効率化と税収拡大を図るという「財政健全化」を重点に置いています。「民間の多様な主体との連携の促進」を掲げ、具体的には公共施設などの整備等におけるPPP(官民連携)やPFI等市場化の推進による実施原則化などをあげています。区は検討素材の説明の中で、区民センターの見直し手法は決まっておらず、3つのパターンを示し区民の声を聞いた中で決定していくとしています。しかし、第2章の「新たな区民センター検討の大きな方向性」の中では、国の考え方に追随し、民間活力を積極的かつ多様に活用し、施設整備及びその後の運営を効率的・効果的に進めていくことを重要とし、今後の区有施設見直しのモデルケースであると書いています。さらに、これまでの区の発言「民間の最大限の活用」「区の経費負担をなくす」からみても、決定していないと言いながら、パターン①の下目黒小学校の改築を含めた民間活力の最大限の活用案が予測できます。パターン①では、未来像を実現する可能性が高いと書いてありますが、全く根拠はありません。利益優先の民間企業の丸投げでは、施設集約化の下で、効率性の低い行政サービスを切り捨て縮小し、区民は後方に追いやられ、豪華な施設が整備されても低廉な使用料で区民は利用することができなくなります。公的責任を果たすならば、公共サービスの産業化につながる民間丸投げのパターン①は止めること。民間丸投げでは、区民の使いやすい施設にはなりません。区による施設運営を堅持すること。</p> <p>2 検討素材では、区民センター以外の周辺施設の機能の集約化も予想されますが、区有施設は、子ども、高齢者、障がい者など様々な人が活用する場です。だからこそ、区民の身近な所にあるべきです。効率性を優先し、中目黒スクエアや高齢者センターなどの集約化は身近な施設になり得ません。強引な集約化は止めること。</p> <p>3 他の自治体では、学校をビルの中に集約し、屋上に校庭を設けているところがあります。学校は、児童のための教育施設でもあり学ぶ環境を優先すべきです。さらに、災害時の避難所の重要な役割もあり、下目黒小学校の集約化は止めること。</p> <p>4 住民の意見を聴き住民参加の下で進めること。区は、重要な課題だからこそ、あらゆる時点で住民の声を聴くと説明していますが、民間企業のサウンディング調査を行っています。声を聴くというのであれば、その立場を貫き、区民センターのあり方を住民参加で推し進めていくこと。</p> <p>5 絶対高さ規制20mを変更しないこと。区はこれまで、絶対高さ規制20mをつくり景観を守る立場を貫いてきました。第二種住居地域の変更や、地区計画をつくり高さ規制の緩和をしないこと。</p> <p>6 区民センター内にある平和の鐘や広島で被爆した柿の木など、これまで平和の記念事業などに取り組んできたエリアを保存すること。</p> <p>7 施設の役割や住民の安全など後方に追いやり、民間との契約で資金を導入しようとしています。が、国に対し、自治体の施設改修や改築について積極的に財源を求めること。</p>	<p>「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)でも触れていますが、今後の区有施設全体の更新経費を踏まえると、いずれの施設もこれまでどおりに区が保有し続けることはできないということが区有施設見直しの契機となっています。施設に対する区民ニーズも変化していく中、区では限られた財政状況の下、今後も区民サービスに対応し続け、あわせて施設サービスの向上を図ることも公的責任と考えており、その手段としての民間活力の活用は有効だと考えます。区としての責任や役割は担いながら、民間と連携する中でどのように活用すれば新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現し、さらなる区民サービスの向上につながるか、更なる検討を進めていきます。その他のご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
66	<p>検討に当たっては、現在そして将来この目黒区に住み、或いは集う人々に思いを馳せながら、地域が培ってきた歴史や伝統・文化と先駆的な芸術・文化活動との融合を通じて、区民センターをこれまで以上に区民や来街者に魅力のある場としていくことによって、成熟都市とも例えられる目黒区をより一層持続的に発展させていく力となるのではないかと考えるところでございます。また、目黒区はホール、美術館という文化施設に加え、中目黒に音楽大学が開校するなど、基本構想の掲げる「豊かな人間性をはぐくむ文化の香るまち」の実現に向け、着実に歩を進めておりますが、新たな施設が、目黒区の芸術文化活動をさらなる発展へと導く、高いポテンシャルを秘めた貴重な空間であると考えております。今般の検討素材につきましては、公共施設の更新が喫緊の課題である中であって、施設の集約化や民間活力の活用が極めて重要な方策であることも認識したうえで、都心に近い立地を活かしながら、いかに豊かで、創造性あふれる芸術文化活動を展開できるかが求められており、これこそが後世に残すべき資産であると確信します。そこで、この検討素材に示されている、「機能の方向性」に沿う具体的な空間として美術館本来の機能(収蔵、展示、教育普及等)を發揮できることが明確化されることを強く期待するものです。併せて、広大な敷地を活かしながら整備される複合施設は、構成施設が単独に機能するだけではなく、個別の施設にとられない多様な活動が展開され、相乗効果も發揮されなければなりません。その意味では、音楽や演劇など芸術活動との接点や、高度に情報化が進展する社会に対応したサービスの提供など、今後を見据えた施設の展開も重要と考えます。今後の検討素案の作成に際しては、今日まで美術館が取り組んできた実績等も十分にご理解頂きながら、その持てる資源を最大限活用できるよう、具体的な施設整備計画に反映されることを切に望むところでございます。</p> <p>【今日までの取組み】</p> <p>○美術館は昭和54年に設置が決定され、開設準備室、建設検討委員会での準備を経て、昭和63年4月に特別区で6番目の美術館として開設され、開館以来、地域に根ざした美術館として全国に先駆けてワークショップ事業に取り組むなど、教育普及事業に力を注いできました。</p> <p>○また、区民を中心とした美術関係団体とは作品発表等を通じて連携を深め、「区展(目黒区民作品展)」や「めぐろの子どもたち展」などの地域に密着した事業を実施してまいりました。</p> <p>○令和元年度は、めぐろの障がい者アート展「日々のよろこび」を開催するなど新たな事業実施を進めているところです。○美術館に併設する区民ギャラリーは区民の身近な作品発表の場として区民からの利用も多く、例年95%程度の高い利用率も確保しております。</p> <p>○美術館は開館以来30年を経過しましたが、これまでに企画展を199回、延べ150万人を超える入場者を数えるなど、小規模ながらも特色ある美術館として全国的にも注目される美術館となっております。</p> <p>○その成果として美連協大賞、日本建築家協会によるゴールドデンキューブ賞、日本アート評価保存協会の秀逸企画賞など、数々の著名な賞を受賞するなど、目黒区の文化芸術の振興に大きな役割を果たしてきたものと確信しております。</p> <p>○所蔵作品については開設準備段階から区の基金により計画的に収蔵作品の蒐集を行い、藤田嗣治をはじめ高島野十郎などの作品とともに当美術館に信頼を寄せて作品の寄贈をされる作家やコレクターなども多く、美術館の蒐集方針に沿う作品の受入れを行っています。現在収蔵作品数は1,064件2,426点に上り、その評価額は19億3,819円余となります。</p> <p>○このように、美術館には、企画展示やワークショップ等の教育普及事業のほか、区の大切な文化遺産を区民に公開するとともに、区民共有の財産を次の世代に確実に継承していく極めて重要な役割があります。</p>	<p>ご意見のとおり、目黒川沿いに位置し、また中目黒駅と目黒駅の間地点にある区民センターは、区内でも有数のポテンシャルを有しています。</p> <p>全国の自治体同様、これまでは施設整備を集中的に進めてきた中で、区民センターの今日の使われ方からも、区民が施設の設置目的を超えて横断的に活動している側面があることがわかります。今後は、区民センターをとりまく課題や今後果たしていく役割の想定も踏まえ、施設サービスの向上を第一に考えながらも、あわせて区民活動の変化に対応し続けることのできる運営、持続可能な維持管理も重要だと考えています。</p> <p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有し、区民の方々に親しまれてきました。新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たし、より多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、目黒区に適した施設整備を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
67	<p>1) 区民センターの建物は老朽化が激しく、このままでは安全面が心配であることはわかるが、今まで培ってきた区民センターとしての役割、区民の交流、区民まつりや産業振興のお祭りの開催が継続できる施設であって欲しい。すなわち、広場のような場所、図書館のような様々な世代に関わる施設を残して欲しい。</p> <p>2) 民間の活用が、マンション建設のような切り売りをする形ではなく、シェアオフィスのような施設を作ることで、人の流れができるようにしてほしい。</p> <p>3) 下目黒小学校を敷地内に移す場合、田道小学校の児童が下目黒小学校の前を通過して通学するような状況を作らないで欲しい。目黒通りを挟んだ地域は田道小学校の学区域なので、下目黒小学校の門の前を通過して通うという不自然な状況になる可能性があるため、配慮をしてほしい。</p> <p>4) 大鳥神社交差点付近には商業施設、特に金融関係が少ないので誘致して欲しい。</p>	<p>区内外から多くの人々も集うイベントなどが開催され、また賑わいを創出する場としてこれまで果たしてきた役割は、新たな区民センターでも必要な機能だと認識しており、新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させるために、いこう、つどう、つながるといった機能の必要性を示しています。</p> <p>民間活力の活用は、ご意見の施設も含め、新たな区民センターのコンセプト実現に資する視点を持って、総合的に検討していきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
68	<p>目黒区美術館でボランティアをしております。もう、何を申し上げたいかはお判りのことと存じます。区有施設プロジェクト課の方々におかれては「区民センター見直しに～」策定に向けた「検討素材」作成にあたっては各方面への確認など取りながら一言一句検討されての資料であろうとご苦労を察するばかりです。区民センターの老朽化による建て直し(更新と表現されるのですね)は年々更新される建築基準にもそぐわなくなりやむを得ないことと思います。特に最近の災害は どんな地域にとっても人ごとではなくいつか自分の街もと思わせるほどのひどさです。まずは命を守れる施設が求められるかと思えます。そして建物における未来像も交流が主眼のようでもことに仰せのとおりと存じます。が、美術館に関してはこれまで果たしてきた役割にも触れられず現敷地内にある「建物＝区有地」としてだけの捉え方のように感じられます。民間活力(資金とは表現しない?)を活用した他自治体の例を挙げておられますが、武蔵野市は吉祥寺のビルの一つの階に、大和市はインターネットで美術館を開館というように、市の複合施設の中に美術館はありません。しかし、何としてでも美術館を持ちたいという気持ちの表れでは? 渋谷区は松濤に立派な美術館があります。目黒区はどうなるのでしょうか。このプロジェクトでは文化についてのコンセプトは何でしょう。現在、目黒区の館蔵品は3階に収納されており、当初より目黒川に近いことは想定内だったのでしょう。この間の台風被害にあった川崎市民ミュージアムはお気の毒です、館蔵品が元どおりになって戻らなくなってその価値は何ものにも代えがたいとあらためて思い知らされます。目黒区美術館に来館される方はあの雰囲気がいとおっしゃいます。規模は小さいだけに見やすく、木々に囲まれた小道から気軽にお立ち寄りいただいています。区の美術館といっても 区民ギャラリー共々どこの地域の方々にも利用していただける場です。皆さま、目黒区美術館のHPをご覧くださいませ。これが目黒区民が優先的に利用できる複合施設＝ビルの中にあるのは如何なものでしょう。建て替えてさすが! 目黒の美術館らしいというものが出来れば望外の喜びですが、現実的にムリであれば美術館ありきのビル、歌舞伎座のような形式はどうでしょう。美術館を持っている区は少ないのですから、そこを強調し、民間「活力」の会社が美術に無関心でビルのどこかに入れればよいなどという「活力」側のプランに負けないよう目黒区には頑張ってくださいたい、目黒区は美術館を重視していると信じたいのです。何より、申し上げたいのは 美術館はその区の民度の高さを示すものです。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら全体の検討を進めています。</p> <p>23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区美術館については、新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
69	<p>★施設全体のバリアフリー化★だれでもトイレ★授乳室・おむつ替えスペース★バリアフリー更衣室(男女別でなく、介助者も一緒に入れる)★サーキットルームのような室内遊具のスペース(公園で遊ばせることが難しいため)★室内の公園。ボルダリングやトランポリン、ジャングルジムなど、大きな子どもでも楽しめて、体をいろいろ使える遊具があるといいと思います。★武蔵小杉のグランツリーにあるキドキド(ボーネルンド)のような乳幼児が遊べる室内型遊び場が欲しいです。有料でも構いません。むしろ誘致して入ってもらってもいいのではと思います。★スペシャルニーズ児もそうでない子どもと一緒に遊べる施設を作りたいです。・インクルーシブ公園・ユニバーサル公園・オムツでも利用可能な室内プール★区民プールの幼児エリア。夏休みは一度に利用する方が多過ぎるのが気になってます。浮き輪があると密度が凄くて泳ぐどころか浸かるのが関の山。世田谷公園のプールのように2時間入れ替え制のように人数を規制していただけたら安全に遊べるのではないかと思います。★その近くに銭湯がなさそうなので、共同風呂があるとプールやトレーニングの後に入るとかもできていいのかなあとと思います。★最後に利用したのが2年程前で今もお勤めか分からないのですが、乳幼児であろうが子どもが少しでも大きな声を出すと必ず注意してくる中年男性の職員がいて毎年夏休み嫌な思いをしていました。子どものエリアもあり、皆が利用する図書館でそこまで厳しくしなくてもいいのになと思います。</p> <p>★子どもが多少騒いでもOKな、キッズスペース付きのカフェ。★表参道にあるクレヨンハウスのような絵本の図書館。★代官山蔦屋書店のように、カフェでお茶をしながら本を選んだり、読める図書館。★予約してグループで借りられる部屋や、調理室。★レストランが小さめで子ども椅子も限られているので、フードコートみたいにゆったり食事ができるスペースがあると嬉しいです。近隣にもなかなかそういった場所が少ないと思います。★施設の話ではないのですが、子ども向けのイベントが少なく感じるので、そういうのをもっと増やしてくれるといいなと思います。★児童発達支援や放課後等デイサービスが、区民センター内にあつたらいいです。創作・音楽・運動やダンス・プール・公園など、必要に応じて、区民センターの施設が使えれば、専用施設が少なくて済むと思います。一緒に場所を共有することで、交流が生まれると思います。下目黒小学校や学童保育等との交流も図りやすいのではないかと思います。</p>	<p>現区民センターは、社会状況の変化とともに設置当初と求められる諸条件も異なっており、バリアフリー対応も課題の一つです。施設全体のバリアフリー化は将来を見据えた上でも不可欠だと考えています。また、子どもも含めて誰もがのびのびと、思い思いに過ごせる空間としていくことが新たな区民センターに求められているものと考えており、空間の共有や多機能化等を進めることで、様々な活動や変化に対応でき、全ての人が世代や背景を問わず、安心して共に過ごすことのできる空間づくりを目指していきます。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
70	<p>いつもさまざまなお取り組みをありがとうございます。障害児とその保護者の観点から、述べさせていただきます。</p> <p>P9の「建物・設備の課題」として、バリアフリーの対応をお考えいただけること、大変ありがたいです。駐車場を利用することで、通常の施設より遠くからも利用しやすい環境にはありますが、バリアフリーへの対応がされれば、さらに通いたいという方は増えると思います。</p> <p>P14の「考え方の異なる人々が多様性を認め合い、尊重しあえる意識の醸成」と方針を打ち出してくださり、ありがたく思います。障害の特性により、地域の中で育つことが難しいことを日々、実感しています。屋外の公園で遊ばせることはさまざまな危険があり、公園遊びが難しい子どももいますし、屋内の施設ではパニックを起こしたり、走り回って迷惑になると利用できないということもあります。地域の学校に通うことができないため、児童館などを利用したいと思っても、まわりのお子さんの迷惑になると思えば足が遠のきます。地域とのつながりはどんどん希薄になります。外食をしたい、カフェでゆっくりお茶をしたい、ママ友同士でおしゃべりしたいと思っても、一時も目が話せない子どもたちを追いかけるばかりで、くつろげる居場所ありません。公共機関を利用することも困難が伴う場合もあります。子どものイベントに参加することも難しいです。日々、幼稚園や学校、療育機関などを往復するのみで、ほかの時間は家に閉じこもりがち…という親子もいます。本来なら、子どもたちにいろいろな経験をさせてあげたいと思うのが、親心だと思いますが、障害特性ゆえに、経験を積ませることはかなりの困難を伴います。それに加えて、社会の目はとても厳しいです。しつけがなっていない…うるさいから外に連れ出すように…。もっと、障害理解をしていただいて、子どもたちの育ちをあたためた目で見守っていただけたらと思いますが、それを望むことはとても難しいです。区民センターが年齢や障害の有無も問わず、誰もが利用しやすいような施設であり、多様性を尊重し、寛容さを育めるような空間になれば、障害児とその保護者にとっても、安心して利用することができる、居心地の良い居場所になると思います。障害児が家に閉じこもることなく、区民センターで遊ぶことができれば、また保護者もくつろぐことができると思います。一緒の場を共有できれば、自然と障害理解も進んでいくと思います。どこの学校に通おうとも、地域とのつながりを持つことができます。区民センターが今後、どのようになっていくのか、とても楽しみです。大変なお取り組みとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>現区民センターは、社会状況の変化とともに設置当初と求められる諸条件も異なっており、バリアフリー対応も課題の一つです。施設全体のバリアフリー化は将来を見据えた上でも不可欠だと考えています。新たな区民センター検討に当たっては、今後の社会の変化に対応するうえで多様性の尊重も大きなポイントだと認識しています。子どもも含めて誰もがのびのびと、思い思いに過ごせる空間としていくことが新たな区民センターに求められているものと考えており、空間の共有や多機能化等を進めることで、様々な活動や変化に対応でき、全ての人が世代や背景を問わず、安心して共に過ごすことのできる空間づくりを目指していきます。</p>
71	<p>日頃よりお世話になっております。私共は、現在、就労継続支援(B型)と就労移行支援、就労定着支援の事業を運営しています。自主製品は主にお弁当の製造、販売をおこなっており、利用者には平均36,000円の工賃を出しています。今後新たに、B型の施設をつくりたいと計画しており、利用者の仕事として清掃を考えています。区民センターの改築にあたり当センターの清掃を請け負わせていただきたいと思います。是非ご検討下さいますよう宜しくお願いいたします。</p>	<p>ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
72	<p>7ページの資料もごく大まかな内容ですし、区長との懇談会での説明も簡単でした。たたき台の内容が今一つよくわからないのですが、目黒区や目黒区民にとり区民センターの見直しは面積的にも広大で、従来、諸施設が果たしてきた役割は複合的で大きなものであり、今後に向けても区民にとり大変に大きな課題だと思えます。この地域は、子どもから大人までが集まり、美術や読書、学習、スポーツなど多面的な拠点としてありました。従って、今後に向けてこの拠点地域をどのように活用したいのか一目黒区民の声をよく聴くことは、区として当然の義務であり、責務であると思えます。子どもたちにも聴いてほしいのです。策定案に対しパブリックコメントを募集するだけというのが、従来の目黒区のやり方ですが、それでは、区民の声を反映することはできません。</p> <p>(〔取り組み全体の流れ〕を見て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年に策定された「見直し計画」はわかりませんが、今年度末までに素案をつくり、2020年に「基本的な考え方」を策定するとありますが、これらの過程のなかで、直接的に区民に意見を聴く機会はあるのでしょうか？ ・基本構想を決めるのは、目黒区の担当部署の職員だけなののでしょうか？ そうだとしたら、その決め方は間違っていると考えます。 ・タスクフォースをつくるのなら、そこに区民の代表(できるだけ公募が望ましい)を入れてほしい。 ・それはないのだとすれば、素案段階で、公募で発言希望者を募り、ワークショップ形式などで、区民の直接の意見や考えを聴くべきだと思います。 <p>(「区民センター検討の大きな方向性」を読んで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここの、1~3に並び、「安心して利用できる」ことを挙げたいのです。区に責任をもって対応してもらえることは、安心感として区民の支えになっているのですから。必ずしも、民間=魅力向上とは限りません。 <p>(「新たな区民センターの未来像」を見て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人、子ども」という視点は敢えてつくらなかったのかもしれませんが、赤ちゃんから幼児、小中学生から高校生たちが楽しむ場所、居場所づくりという視点がまったくない。これは大きな欠陥ではないかと考えます。 <p>(6ページの「施設整備に当たっての着眼点」では)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直し内容をどのようにするかということを決めねば、パターン(1)から(3)までから選べないと思えます。 <p>この表を見ると、パターン(1)が「コンセプトにあった空間整備実現に向け、民間活力も最大限活用」「効果的な土地活用」とあり、区の負担が少ないということで、区の一押しのように感じますが、疑問です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間活用することが、どうして、「未来像の実現可能性が高い」と言えるのかがわかりません。 	<p>区民センター見直しの取組については、より丁寧に区民の皆さまにご意見をお伺いすることで、地域に親しまれる施設づくりにつなげたいと考え、素案の作成前の検討の初期段階に「区民センターの見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)を作成・公表したものです。今後も、新たな区民センターの検討において、適切なタイミングで、的確な方法により区民への説明や意見聴取、意見反映等に努め、より良い施設づくりにつなげていきたいと考えています。</p> <p>新たな区民センターにおいては、ご意見にある子どもたちも含め、誰もが利用しやすく、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p> <p>また、民間活力には、取組全体の過程の中で、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討では、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、整備規模、経費規模、民間活力活用規模のバランスを見極めていきます。</p> <p>なお、運営面での民間活力の活用は、施設サービスの向上を図り、将来にわたり区民活動に役立てていくための手段として検討していくものです。</p>

No	意見	今後の検討の方向
73	<p>地域としては住宅立地に位置し、約半分が公園緑地で構成されており、目黒川沿いは桜並木が豊かな緑地空間を提供しているのが区民センターの立地的特徴だと言えます。都市開発の流れとしては、目黒駅周辺の上大崎方面への開発は今後進むと考えられ、区民生活の多様性を提供する機能は民間を中心としてこのエリアで供給されると予想されます。「五反田リバーステーションの整備」も既に進められているため、目黒区単独での事業計画策定ではなく、目黒川水系で繋がる区を跨いだ開発方針が必要になると考えられます。小学校が隣接している事からも、緑地帯や水景を主体とした都市に残る生態系と文化的な側面がその特徴となるべきだと考えられます。高容積や高集積の施設によるマルチな用途設定は東京の他の地域で多数供給されつつあります。「目黒に住む・生活する」事に記憶に残る潤いある計画が必要になると考えられます。目黒美術館ではワークショップを通じてコミュニティの機会が提供され、川沿いや緑地帯では、カエルや昆虫等との触れ合い等を通じて3世代が時間を過ごせる空間が確保されています。新たな特徴を無理に持ち込む事を中心とするのではなく、この地の文脈を考慮した計画が必要です。</p>	<p>新たな区民センターにおいて、目黒川や公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。どのように活用すれば新たな区民センターの魅力を最大限発揮できるか、様々な可能性を検討し、目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p>
74	<p>当団体は、平成28年度の区有施設見直し計画の検討の際に、区民センターの大規模改築に合わせて、複合化、集約化、多機能化をはかる中に、男女平等・共同参画センターを組み込むよう要望書を出しました。そのような団体の立場から、標記の件に関し下記の通り意見を表明します。</p> <p>1 施設整備の範囲 当団体は、区民センターの施設整備の範囲を本館棟、中小企業センターホール及び図書館・児童館棟のエリアと想定しており、周辺環境を一変させるような大規模再開発は望んでいません。従って、美術館は現行のまま維持し、公園の樹木、目黒川の桜等は現在の景観を活かして下さい。</p> <p>2 官民連携について 施設整備には巨額の費用がかかり、区の財政負担軽減の観点から、官民連携は他区でも実施しており、時代の流れに逆らえない状況と認識しております。しかしながら、区有施設の整備事業であるからには、区が計画の段階から主体性を持ち、民間事業者依存しすぎず、区民の利益を最大限に重視した施設づくりを実施するよう強く要望します。</p> <p>3 ハードとソフトは分けて考える。 建設から施設の管理、運営まで一体化して民間事業者委託するのは止めていただきたい。区民センターは複合施設で、施設ごとに設置目的が異なり、区や教育委員会が直接責任を負って運営すべき施設もあるので、施設運営については、別途検討する必要があります。</p> <p>4 災害に強い施設づくり 区民センターは目黒川に隣接し、目黒川溢水の際には、浸水する危険性があります。盛土をして底上げするなど、地震、台風、大雨の自然災害に耐え得る堅牢な施設づくりを要望します。</p> <p>5 区民・利用者の声を聴く建設協議会の設置 区民センターは、目黒区東部地区の拠点として、永く地域住民や利用者から愛される施設でありたいと思います。そのためには、計画の早い段階から区民や利用者の意見を聞き、各施設の機能の充実発展・関係性など、施設全体の方向性を整理して整備されることを望みます。</p>	<p>新たな区民センターにおいて、目黒川や公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。どのように活用すれば新たな区民センターの魅力を最大限発揮できるか、様々な可能性を検討し、目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。あわせて、美術館についても、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かせるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。施設整備に当たっての民間活力の活用は、施設サービスの向上や効率的な維持管理などを目的として効果的に活用していきます。また、当敷地は、目黒川に隣接するなどの地理特性から水害対策上の観点も大切であると認識しています。検討に当たっては、周辺環境にどのような影響を及ぼすか等も考慮する必要があると考えています。いずれにしても、防災対策としてどのような機能を有するべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けた本事業の検討に関する団体・区民からの意見聴取等については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
75	<p>○「検討素材 第2章 新たな区民センターに向けて」について 周辺施設を含めた施設群が果たしている機能を分析し、将来に向かって施設群の効果・効用の最大化を図る視点で検討を願います。当団体は、就業を希望する高齢者に就業機会を提供することにより、高齢者自身の生きがいの充実を図るとともに活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としており、新たな区民センターに求められる「つくる・つたえる」、「学ぶ」、「はぐくむ・ささえる」、「いこう・やすらぐ・つどう・つながる」、「はたらく」という5つの機能と密接な関りを有した事業を展開しています。整備する施設については25ページにある「区民センター周辺の施設機能も含め、相乗効果が最大限生まれる機能の組み合わせ」についてご検討いただき、将来像も踏まえながら周辺施設も含めた施設配置の最適化を実現していただきたいと考えています。なお、当センターでは、南部地区センターに分室を配置するなど、計5か所に分散して事業を展開しておりますが、かねてより当センターの事務局機能が本部と分室に分散していることには課題があることから、事務局機能の統合など効率的な事業運営について検討することが必要と考えていました。6ページにある周辺の区有施設の整理を見ると、田道ふれあい館や下目黒住区センターにおいてシルバー人材センターは構成施設ではないことから記載されておりませんが、施設の中では高齢者に対する就業機会の提供を通じて前述のような機能を果たしているものと考えています。今回の区民センターの見直し検討では、こうした事情も踏まえながら区民センター周辺の施設群において現に発揮されている機能を分析し、将来的に施設群の効果・効用の最大化を図る視点で検討を進めていただきたいと思ひます。</p>	<p>区有施設見直しの取組全体では、区民の利用のしやすさや事業の効率性なども考慮したうえでの施設配置の最適化は重要だと考えています。本プロジェクトにおける周辺区有施設の集約化は、区民センターの有する機能と親和性や共通点を整理したうえ、集約化を図った場合に相乗効果が見込まれるか等について検討し、限りある敷地の中での実現可能性を探っていきます。</p>
76	<p>区民センターを始め色々な目黒区有施設を利用しております。季節毎に緑を楽しめ、人々の集える広場、多彩な利用に対応する建物があり、集会を持ちやすい等「目黒区はいいなあ」と区外の人に羨まれております。しかし、建物は老朽化しますし、大雨、台風、大潮の重なった時の目黒川の水位と建物の電源は？と心配もあります。「区民センターの見直しについて」、美術館は現状のままにして、他の建物を建て替えを、区主導で計画を進めて欲しいと思ひます。民間を入れると、新たな居住空間を設けるなど、区の人口が増える懸念があり、保育園の問題や、災害時の防災も増えることでしょう。目黒区としての望ましい人口はどの位なのか、の展望を出して欲しい。現在、私は消費者センターを使っていますが、大変良い施設だと思ひています。図書や新聞を読めるスペースがあり、会議室でDVDを見ることも出来ます。その他に、気軽に話し合える場所があり、湯沸し室や、何より保育室が調っていて、子育て中の人たちも社会参加できる施設になっているのが良いと思ひます。施設の見直しをしても現在の良いところを無くさないでください。エレベーターに行くところが複雑なのは困りますが、周知のことでしょう。区民センターの社会教育館の保育室は、現在のものよりも充実した設計にしてほしいと思ひます。衆知を集め、より良い計画を作ってくださいように、と希望しております。</p>	<p>新たな区民センターにおいて、目黒川や公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。どのように活用すれば新たな区民センターの魅力を最大限発揮できるか、様々な可能性を検討し、目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間を目指していきます。 新たな区民センター検討に当たっては、これまで各施設が担ってきた区民活動を支える機能を継承しながら、将来を見据えた縮充を目指していきます。美術館についても、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かせるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
77	<p>目黒区民センターの見直し検討においては、「目黒区区有施設見直し計画(平成29年6月)」の「見直し方針:視点4 区民の安全・安心のため、区有施設における防災機能を確保する。」との方針を踏まえて検討すべきであり、近年、地震・風水害等の災害が多発していることから、区有施設の防災機能の強化はより一層重要な課題と考えます。目黒区民センターについても、地域の防災拠点としての機能を併せ持つことにより、近隣住民の安全・安心に寄与することから、本検討素材において、目黒区民センターを防災拠点として明確に位置づけるべきと考えます。なお、当地区は目黒川に近接していることから、震災時だけでなく、水害発生時にも機能継続が可能となるよう、必要な対策(建物の浸水対策や自立電源・冷暖房機能の確保など)を図る必要があると考えます。</p>	<p>昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターでは地域における防災機能の充実の必要性を認識しており、防災対策としてどのような機能を有するべきか、目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p>
78	<p>目黒区民センター見直しの検討素材を拝読させて頂きました。全ページにわたり美術館に関する見直しがなく不安を覚えました。美術館は私共協会として春は美芸展、秋は区民作品展として使用させて頂いております。目黒区は文化の香る意識の高い区として他の区からも羨望の的です。都内23区の中で絵画、書、写真、手工芸と一同に会しての展覧会は貴重な存在であり、今迄通りの美術館本来の維持・管理を熱望いたします。目黒区美術館の存在を明白にしていきたいと思っております。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有し、区民の方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しており、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
79	<p>検討素材につきまして私見を述べさせていただきます。この案につきましては今回初めて聞き及びました為に甚だ私の認識が乏しいのをまずお詫び申し上げます。私にとって区民センターといえれば毎月9月下旬に行われる「区展」に協会の会員として約25年、毎年私の主催している教室の生徒と共にアメリカンフラワー（針金とアクリル樹脂液で作るガラスのような造花）を出品させて頂いています。また桜の時期に美芸作家協会主催の「美芸展」が区民ギャラリーで開催されるのにも参加いたしますので、とても親しい場所です。聞き及びますと上記の案には「目黒美術館」が現行のような独立した建物として存在できるのかどうか明記されていないとの事です。目黒美術館、区民ギャラリーにとってもお世話になり愛着を持っている区民といたしましては、とても不安です。区立の美術館といえば世田谷、練馬と共に数ヶ所しかありません。大きな箱物の中の一部ではなく、独立した美術館を持つという事は、とりも直さず、区の文化度の高さを示すものとして誇るべきところではないでしょうか。21世紀がスタートした頃、目黒美術館では「目黒区の美術展2003」としていわゆる在住作家展があり、私も出品させて頂きました。展示は1か月間、私はその3回めでしたが、36名作品を紹介したカラーの表紙、20ページに及ぶ作家紹介のあるパンフレットもある本格的なものでした。期間中には遠方の友人知人も状況の折に立ち寄ってくれ、他の区に住む仲間からとてもうらやましがられたものです。どうか美術館は区民の宝として独立した建物として考えて頂きたいと希望いたします。</p>	<p>23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきたなど、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、限られた敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
80	<p>区展に出展して毎年美術館ギャラリーを使用させて頂いています。落ち着いた設備の中でというのが無くなるというのはいかがなものか。長年、目黒区美術館を大切に思っているのです、美術館はあってほしいと思っています。</p>	<p>美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
81	<p>目黒区美術館を今のまま独立館として残して下さい。現在の美術館を造る時に、広く美術の向上をめざせるよう区民ギャラリーを併設することの要望を出して、実現したと聞いております。区展、美芸展共現在の展示で楽しみにして居られる人が多いのです。どうぞよろしくお願い致します。</p>	<p>美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。新たな区民センターという複合施設全体の中で共有性や多様性を促進していく役割を果たせるよう、限られた敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
82	<p>手工芸部門は春の美芸展、秋の区展いずれも区民ギャラリーを使用させていただいていますが、スペースは充分ですが、立地的に不自由しています(例えば事務所からギャラリーへの通行の不便さ。急階段で手すりとりつけて完全に解決していない)。美術館としては当然独立して存続させてもらいたいが、設計の段階から使い勝手の良い施設を考慮してもらいたい。</p>	<p>現区民センターは、社会状況の変化とともに設置当初と求められる諸条件も異なっており、バリアフリー対応や複合施設全体の動線は、現在の区民センターの課題の一つだと認識しています。新たな区民センターは、限られた敷地の中で、利用者にとっての使いやすさ、サービス向上を第一に考えながら、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
83	<p>年に2回はかならず美術館で催事を行っているものです。23区の中でも数少ない建物である美術館はなくしてほしくない建物です。区民の人達に発表できる場所は是非残してほしいと思います。人に見せる・発表するという行動は人生において大切な事であると思う。</p>	<p>美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
84	<p>目黒区美術館は、今のまま残していただきたいと思います。区民センターの中にいれずに独自の美術館であってほしいと思います。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。新たな区民センターにおいても、美術館がこれまで以上に多くの方々にとって身近な施設となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
85	<p>区として美術館があるのはとても素晴らしい事です。それが、民間に委託されてしまうのはとても残念な事です。</p>	<p>現在の美術館は、指定管理者制度により運営しています。運営形態については、将来にわたる区民サービスの向上と、大規模複合施設全体での効率的な運営、効果的な維持管理等を考慮しながら検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
86	目黒区には素敵な作品を出される方が沢山住んでいらっしゃる、現在目黒区美術館で行われている区展が存続出来るようにお願い致します。	美術館については、展示スペースやワークショップスペースのほか、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきました。新たな区民センターの未来像(コンセプト)を実現させる機能の方向性においても、創作し、発表でき、芸術文化に触れる空間は必要だと示しています。実現に向け、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。
87	都内で区の美術館がほぼなく建物も目黒区美術ほどの物はないと思いますので是非このままの状態で残して頂きたいと思います。	区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。新たな区民センターにおいても、美術館がこれまで以上に多くの方々にとって身近な施設となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
88	東京23区には数少ない美術館でもあるので存続の形でご検討お願いしたいと思います。	23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、新たな区民センターでは、これまで以上に多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限られた敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。
89	区の美術館として建物を残して欲しい。23区でも美術館を持つ区は貴重だと思う。総合施設として組み込むことには賛成できない。	23区には、目黒区も含めて6区が区立美術館を有しており、規模や機能など状況は様々です。目黒区美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、新たな区民センターでは、これまで以上に多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限られた敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。

No	意見	今後の検討の方向
90	<p>(4)民間活力の活用について パターン3を希望 図書館、学童クラブ等で実施されている形態だと思うが、導入当初は利用者、地域に大きな不安があったものの、活動を積極的に公開してきたことで信頼を得つつあると思う。パターン1, 2は、武雄市での事例(図書館を請け負った書店が不良在庫のハウツー本を大量に図書館の蔵書として納入した)のようなことが起こっても区民に見えにくく、不安である。</p> <p>(2)区民活動の変化予測 目黒区はオシャレな商業地、文教地区、閑静な住宅街など魅力的な条件を備えた立地のため、住民の転入出等は企業の経済活動に大きく左右される。一例として、減少すると予測した子どもの数が増えているのは、都心回帰に対応したマンション建設によると考えられるが、次の波がいつどのように来るかは予測困難である。公共施設整備においては予測に縛られず、予想外の変化にも柔軟に対応できる準備をしておくことが重要と考える。</p> <p>2 留意すべき視点 1. 防災 台風15号以降の災害の際、目黒川が度々報道されたためにたくさんのお見舞いをいただいた。資料作成の時点では予見できなかったことだろうが、今や防災、避難所としての機能が最重要課題と言っても過言ではない。日頃は有効に活用されながら、災害時には頼れる施設となるよう、再度プランを作り直すべきと考える。その災害も地震だけでなく、水害、停電など多様なパターンを当然想定しなくてはならない。</p> <p>2. 工法について 「改修」と書かれると一般の方はリフォームをイメージすると思うが、実際には中央体育館で行われている「リノベーション(リノベ)」で別物である。東京工業大学は古い建物はほぼすべてリノベしているし、建設大手のHPでも、リノベで間取りも大胆に変えられ、100年もつ建物にできると主張している。また、リノベはゴミや使う資源の量でも環境負荷が少なく優れているとされ、工期や騒音の面で近隣に与える負担も少ないと考えられる。国の政策でもリノベによる長寿命化が推奨されている。区の説明会では「改修は単に問題を先に延ばすだけ」といったニュアンスの発言があったが、不勉強か故意に誤解を誘導しているように感じた。</p> <p>(4)他自治体の参考事例 興味深い複合施設が3例紹介されているが、複合施設では利用者の利害が衝突することがある。目黒区内で実際に体験した事例を紹介する。</p> <p>1. 緑ヶ丘幼稚園(当時)の園児が、園庭の泥のついた靴で文化会館別館(児童館)の入り口を汚すとの苦情が文化会館利用者からあり、園児は児童館の利用が禁止された時期があった。</p> <p>2. パーシモンホールは素晴らしい施設であり、GTプラザホールも人気の施設であるが、どちらも図書館に音が響くため大太鼓の演奏が禁止されている。目黒囃子という伝統文化がありながら非常に残念である。</p>	<p>区民センターの建設から45年が経過する中、利用形態や多様性への配慮など、社会的な流れも多くの変化が見られます。こうした変化に対し、既存の施設や運営において対応できる範囲にも限度があることから、新たな区民センターにおいては、今後も変わり続けることが予測される区民活動に対応し続けることのできる施設となることを目指していきます。</p> <p>また、昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターにおいては、防災対策充実の視点も不可欠だと認識しています。防災対策としてどのような機能を有するべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p> <p>新たな区民センター整備に当たっては、「区民センターの見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)でも示していますように、改修も選択肢として検討しています。躯体を維持しながら改善できる内容とその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく、将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮した上で、大規模複合施設としての効果を最大限発揮できる最適な整備手法を検討します。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>3. 中央町社会教育館(さくらプラザ)は区民によく利用されているが、たまたま各部屋で親子向きのイベントが重なってしまったとき駐輪場から自転車があふれ、マンションの住民から利用団体に対し、「マンションの資産価値が下がる」と非常に強い調子のクレームが寄せられた。このように複合施設では想定外の価値観の衝突が起こることがある。例えば区民センターの上層をマンションを含む施設にした場合、住民から区民祭りの混雑、騒音、サンマのにおいなどに対しクレームが出る可能性があると思う。</p> <p>3 意見募集について 意見募集の方法だが、郵送、Fax等が可能なのは非常に良い。ただメールでの提出に関しては、区のHPから入力フォームに飛ぶスタイルが一般的だと思う。電子データは集計も簡単で字数制限なども容易なので、今後はぜひそのようにしてほしい。</p>	
91	<p>区民の活発な活動の拠点、複合施設として果たしてきた役割は大きい。それは総括として捉えるべき。ただ、時代の流れと共に、縮小化、効率化(効率的活用)はやむを得ないとも思う。目黒区の持つ数少ない土地の中の、最後の広域地として全体の中で構想されるべき。何よりも、人の集う空間、場としたい。文化の発信の地として。決して中目黒のようなただただ人が集まるという意味ではない。緑率の低い目黒区、是非、大きい公園は残したい。しかも、大規模避難場所としても使うことのできる場。何よりも大きいのは進め方。「区民の意見を共有しながら進めるシステム」の構築を。民間活力の積極的活用については慎重にしたい。水道事業が今、コンセッション方式に切り替えられていき、結局、市民の負となるようなことのないよう。</p>	<p>新たな区民センターにおいては、機能の縮充を図りながらも、時代に応じた区民活動に対応し続けることのできる空間づくりを目指していきます。その中で、ご意見にもあるようなつどい、つながることのできる空間をどのように実現していくか、公園や目黒川の活用も含めて検討していきます。</p>
	<p>めぐろ地ビール(ブランド化)をリノベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッポロビールさんのご連携をいただき「めぐろ地ビール製造販売」する(昨今クラフトビールブーム)。 ・目黒唯一の醸造所である‘マイスターブロイ’さんにご連携いただき、周辺店舗にて様々な種類のクラフトビールを製造販売する。 ・イメージはイギリスのような地場における小店クラフトビール群のリノベート。 ・老人施設内にて地ビール製造は有効的。 <p>保育園・小学校隣接の昼プレイパークで夜キャンプ場「MGRフィールド(仮称)」をリノベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園や自然を生かして‘日本冒険遊び場作り協会’さんや‘mont-bell’さん等にご連携いただき「MGRフィールド(仮名)」をリノベートする。 ・昼は子供たちのプレイパークとしても稼働し、夜には宿泊可能なキャンプ場として稼働する。(昨今グランピングもブーム) ・BBQエリアもリメイクする。 	<p>個別の多様な工夫方策等のご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
92	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージは‘パカブ’さんや‘ハローウッズ’さんのような自然体験エリア。 ・イメージは‘ドン・キホーテ’さん等にご連携いただきDIYホームセンター等の併設も面白い。 カラオケやコンサートができる「サウンドエリアM96(仮名)」をリノベート ・病院さんやホテル、学校等を活かして中野サンプラザのような音楽場所を‘東京音大’さん、‘ヤマハ’さん等にご連携いただき「サウンドエリアM96(仮名)」をリノベートする。屋内外。 ・ニッポン発祥の、今や世界の「カラオケ」を老若男女が楽しめる空間をリノベートする。BOX型、レストラン型、ステージ型など。 ・海外Artistなども講演に訪れるように。 ・イメージはサントリーホールさんやオペラ座さんのような感動体験エリア。 ・‘目黒シネマ’さんにご連携いただき映画祭も検討。 「フードコミュニティー」をリノベート ・権之助坂のニッチな立地を活かして‘スターバックス’さん‘ドン・キホーテ’さん等にご連携いただき「フードコミュニティー」をリノベート ・2020年の東京オリンピックを期に世界の注目が集まる東京。歴史と文化のまち目黒らしいフードコミュニティーをリメイクする。 ・イメージは横浜赤レンガ倉庫周辺 「釣り場・食育」をリノベート ・目黒川を活かして「淡水釣りができるエリア」をリノベートする。 ・‘釣船茶屋ざうお’さん等にご連携いただき「海水釣ができるエリア」をリノベートする。さんまがつれたらサイコーですが。。 ・区内・外の学生が社会実践の場として使える、「食育の場」をリノベートする。 ・「MGRフィールド」でさばいて「BBQエリア」で食べられるようにする。 ・船入り場から観光船を出す。(さくらの時期には出ている) 「体育館・ジム」「スケートボード・BMX場」「格闘技場」をリノベート ・区内はもちろん、区外の人たちも使いたくなるような「体育館・ジム」。中目黒スクエア一等に「スケートボード・BMX場」エリアをリノベートする。 ・トランポリンや‘T-Wall’さんにご連携いただき、ボルダリング設備を、周辺病院内、区役所内や中目黒スクエア一内にリノベートする。 ・‘日本大学ボクシング部’、‘全日本女子プロレス’さん等にご連携いただき、「格闘技場」をリノベートする。(昨今世界的な格闘技ブーム) 「ART」をリノベート ・区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいような「ART」エリアをリノベートする。 ・世界にただひとつの‘目黒寄生虫会館’さんにもご連携いただき、目黒美術館・東京都庭園美術館・百段階段・長泉院附属現代彫刻美術館さん等を中心に、周辺病院内、区役所内や街にもARTを点在させる「街を周遊するARTコミュニティー」を展開リノベートする。 ・一か所で完結せずに緩やかなARTネットワークでコミュニティーを支えあう力を醸成する。 「プール」をリノベート ・‘日本大学スイミング部’さん等にご連携いただき、区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいような「スイミング」エリアをリノベートする。 	

No	意見	今後の検討の方向
	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃工場の余熱を活かしたお風呂やジャグジー。ウォータースライダーや流れるプール等、屋内外のスイミングエリアをリノベートする。 ・‘ホリプロ’さんや‘LDH’さんなどにご連携いただき、プール内でコンサートやイベントを行う。 「学び」「文化」をリノベート ・下目黒小学校、田道小学校、日の出中学校、大鳥中学校、多摩大学目黒中学・高校、目黒学校サポートセンター、東京インターナショナルスクール中目黒校、ミニマックスインターナショナルスクール、海上自衛隊幹部学校などの皆さまにご連携いただき、区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいくなるような「学びエリア」をリノベートする。 ・既存の学校の概念をリノベートして、誰もがいつでも学びを身近に感じられる「生涯学習の街目黒区」を目指す。 ・近隣‘大使館’さんにご連携いただき、文化交流イベントを行う。 「図書館」を「図書区」へとリノベート ・‘TSUTAYA’さん、‘紀伊国屋書店’さん、‘光村図書出版’さんなどにご連携いただき、区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいくなるような「図書区」エリアをリノベートする。 ・既存の図書館の概念をリノベートして、誰もがいつでも知的好奇心を満足できる環境「生涯学習の街目黒区」を目指す。 ・近隣‘大使館’さんにご連携いただき、文化交流イベントを行う。 「サーキット・ゴーカート」エリアをリノベート ・‘日の丸自動車学校’さん、‘スタンレー電気’さんなどにご連携いただき、区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいくなるような「サーキット・ゴーカート」エリアをリノベートする。 ・‘スタンレー電気’さんにご連携いただき、街中などでもレースイベントを行う。(島根県では2020年9月に開催予定) ・コースのイルミネーション化も行い街をシーズンごとに彩る。イメージはモナコやマン島レース。(大阪市も検討中) 「ヘリポート」エリアをリノベート ・地域の方々皆さまにご連携いただき、区内はもちろん、区外の人々、世界の人々が訪れたいくなるような「ヘリポート」エリアをリノベートする。 ・観光地としてヘリコプターで成田や羽田や調布・多摩川、さらに各企業のヘリポートより訪れてもらう。 ・区内・外の学生、有識者が社会生活実践として、災害に対する避難経路や防犯・防火に対応する「空からもまちづくり」を意識して実践できるようにする。 ・緊急搬送や、要人の利用などにも使用。(品川区は品川区役所の近隣に設置) 	

No	意見	今後の検討の方向
93	<p>1 観光立国としての取り組み 政府は観光先進国への新たな国づくりに向け、「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」(議長:安倍総理大臣)を開催し、2016(平成28)年3月「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定しました。この中では、それまでの計画の達成目標を大幅に見直し、訪日外国人旅行者数を2020(令和2)年に4000万人に、2030(令和12)年には6000万人にすることや訪日外国人旅行消費額を2020(令和2)年に8兆円に、2030(令和12)年には15兆円にするとしています。また、観光は21世紀における日本の重要な政策の柱にする必要があるという観点から、2006(平成18)年12月に議員立法により成立した「観光立国推進基本法」が2017(平成29)年1月1日から施行されています。この法律では、観光を21世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置付け、観光立国の実現に関する施策の基本理念として、地域における創意工夫を生かした主体的な取り組みを尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要であるという認識の下に施策を講ずべきこと等を定めています。また、政府は、この法律に定められている観光立国の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画である「観光立国推進基本計画」を2017(平成29)年3月に閣議決定し、観光政策を推進しています。</p> <p>2 目黒区での観光まちづくりの取り組み 目黒区では、2003(平成15)年に観光への取り組みを開始し、2004(平成16)年目黒区観光ビジョンを策定し、それまでさんまサロンとして使用していた中目黒GT地下1階部分に2009(平成21)年10月18日旧めぐろ観光まちづくり協会を設立しました。その後、2014(平成26)年には、目黒区観光ビジョンを改定し、2016(平成28)年10月には、それまでの協会を解体し、一般社団法人めぐろ観光まちづくり協会を設立し、今日に至っています。現協会は、法人化後3年が経過し、新たなまち歩き事業の推進や外部への情報発信としてネットラジオの配信などを開始しています。また、人材育成に向けて観光ボランティアガイド養成講習を開催するなど、今後、事業拡大に向けて様々進めているところです。</p> <p>来年3月には「法人化3周年 目黒観光フェア」を開催する予定であり、そのために「目黒観光写真コンクール」と「めぐろ土産発掘！」の二つのイベントを同時開催し、広く公募しました。今後の国内の主だったイベントを見てみると、来年度の2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を皮切りに、2025年には大阪万博が控えており、さらに2027年にはリニア中央新幹線が開通する予定で、増加する訪日外国人に向けたインバウンドへの対応が必須となっています。今後はこれらへの対応に向け、当協会の組織及び職員体制の強化や協会運営の安定化を図る必要があります。そのためには、自主財源の確保策としてノベルティグッズの開発・販売や「目黒観光検定(仮称)」の新設など、新たな施策が求められると共に、これまで作成してきている観光マップやパンフレットの更新なども必要となります。</p> <p>3 魅力ある新たな観光スポットの創出</p>	<p>目黒川は区にとっても大きな魅力であり、新たな区民センターにおいても、その活かし方により区民センターの魅力をさらに高めることのできる要素だと考えています。より多くの方々に利用され、訪れていただくことのできる施設に向けて、今後さらに検討を進めていきます。</p> <p>個別の多様な工夫方策等のご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>今回公表された区のリーディングプロジェクトである「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の中では、今後の区民の活動の変化と新たな5つの機能を合わせた方向性が示された。この中では、「ア つくる・つたえる」として、コワーキングスペース、ファブラボ、多様な活動に利用できるスタジオやホール、アートスペース等が例示されている。また、「イ まなぶ」では、学習場所や図書スペース、自由度の高い会議室などが例示され、「ウ はぐくむ・ささえる」では、オープンスペースや情報発信、行政活動コーナーなど、「エ いこう・やすらぐ・つどう・つながる」では、フリースペース、カフェ、公園などが、「オ はたらく」では、ワーキングスペースやオープンスペースがそれぞれ例示されています。この構成を見ると、自ら積極的に何かをしようという区民の利用が考えられます。しかし、自ら動くことに消極的な区民が足を運ぶ施設にはなりにくい側面も持ち合わせています。区民はもとより、区外からの来街者や外国からの旅行者を誘導するには、更なる魅力づくりが必要です。幸い立地としては、目黒川沿いであり、桜の開花時期にはここを目当てに訪れる外国人も多くなっています。上流は池尻大橋から、下流は品川区までの川沿いの花見が楽しめる回遊性の良いコースです。このコースの途中で新たな観光スポット及び休憩場所として新しい区民センター施設を設けることにより、更なる賑わいを生み出すことができるのではないのでしょうか。桜の時期だけではなく、1年を通じて来街者も含めて誰もが行きたい施設とするためには、例えば友好都市のアンテナショップや目黒区の観光に関する総合情報を集積・発信する拠点を設置し、めぐろ土産やここでしか買えないグッズなどを販売することで、さらに魅力のある施設とすることができます。構成施設の一つに観光情報センターとめぐろ土産やノベルティグッズの販売場所など(約150㎡程度)を含めて計画することを提案します。これにより区における今後の観光まちづくり施策を推進することができます。今後、人口減少が予測される中、目黒区の賑わいを維持し、さらに発展させるためには観光が大きな役割を果たすものと考えられることから、誰もが訪れてみたくなるような観光スポットの創出を計画に盛り込むようことを意見として提出します。</p> <p>ご検討のほど、よろしく願いいたします。</p>	

No	意見	今後の検討の方向
94	<p>全体 区民センターは区民の多くが一体の施設と理解している。例えばホールは一般的に「区民センターホール」だと認識している。しかるに区は「中小企業センターホール」として設置管理している。「区民センター」というのは俗称なのか条例等根拠に基づくものなのか、まずその位置付けを明確に説明すべきである。検討意見を求めるのはそれからである。区民センター見直しの情報がほとんどの区民に知られていない。シティマラソンのようにホームページのトップにアップする。区民センターホールで大々的に説明会を行うなど工夫をすべきである。さもないと、一部の意見だけで見直しが行われることになる。</p> <p>3 ページ 区民センター見直しに関して民間コンサルを多用しているが、従来のプロジェクトとの進め方の違いを明確に説明すべきである。また、情報管理はどのように行っているのか説明願いたい。</p> <p>6 ページ 田道ふれあい館は目黒川を隔てているとはいえ、ふれあい橋が架かる一体施設である。大きなイベントでは一体的に利用されており、中目黒スクエア以下の施設とは密接関連度合が大きく異なる。一体のものとして考えるか、少なくともスクエア以下の施設とはウェイトをかけて検討すべきである。</p> <p>9 ページ ハード面での課題が顕在していると記述されているが、適切なメンテナンスによる施設の長寿命化及びバリアフリー化を区長と区職員はサボってきたとしか読み取れない。放置してきた理由と責任を明記すべきである。その説明責任を果たさない首長や行政に新たな施設の検討を言う資格はなく区民としては任せられるはずがない。まずは説明責任を果たすこと。次に施設運営面の課題を記述しているが、これもハードと同様である。貸室特化や電子図書など新区民センターを待つまでもなく、これまでに検討や実施が済んでいしかるべきであり、未だ行っていないのならば即刻行うべきである。ましてや新たな施設建設を契機にすることは納得できない。縦割り組織だから実現しづらいという説明は区の怠慢であり理解不能である。新施設の誘導策であり絶対に認められない。</p> <p>10 ページ 民間活用の利点ばかりあげているが、負の部分も明記すべきである。たとえば、渋谷区役所は無償で建て替えができたとあるが、企業活動は慈善事業ですか。企業は利潤を出すのが目的で、無償で建てたという説明は、区民の財産を企業に供出している事実を隠すものである。</p>	<p>区民センターは設置当初、種々の機能を有する施設の相乗効果を期待して複合的に設置し、条例を設けて一元的に管理していました。その後、区内に存在する同種の機能の施設単位で管理する必要性が高まったことから、総称としての名称は残しつつ、施設全体を一元的に管理する組織は解消し、それに係る条例も廃止しています。</p> <p>区民センターの検討においては、区が主体的に検討を進めるうえで、区の検討をより専門的で実効的なものとするため、高度な技術力、企画提案力、豊富な業務経験等を有する事業者にはアドバイザー支援業務を委託しています。本業務においても、計画策定支援や検討支援などの区における他の委託業務と同様、区の主体性を明確にしつつ、業務に必要な情報を共有しながら進めています。</p> <p>また、現在の区民センターにおけるハード面での大きな課題としては、バリアフリー化や高度情報化への対応、省エネ対策などがあります。これらは、設立当初とは社会状況の変化により、区民の活動等も変化しており、その対応として求められているものも大きいものと考えています。これらも含めて、「区民センターの課題整理」(平成31年3月)の中で、区の認識として明らかにしています。</p> <p>渋谷区は庁舎建て替えに当たり、区有地に定期借地権を設定し、民間開発と合わせて新庁舎と新公会堂を整備し、整備費と定期借地権の権利金を相殺することで、一般財源に頼らない整備を実現しています。本事例は、数ある公有地を財産的に有効活用した施設整備の事例の一つとして参考にしています。</p> <p>なお、目黒川をはさんだ田道ふれあい館及び田道広場公園の敷地は、目黒清掃工場還元施設用地として、東京都から無償貸付を受けている用地です。周辺施設に係るこうした諸条件等も踏まえつつ、可能性や実現のスピード感を踏まえた検討が求められると考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
95	<p>区民センターは昭和49年7月竣工以来45年の月日が流れ設備のリニューアル等が必要な時期が到来しました耐震面でもIS値が0.6未満があるなど問題があること明確である。区民に親しまれた施設であることは明確で、時代の要請にもこたえるものになる必要がある。新たな区民センターの機能方向性に、現存する美術館のことにに関する記載が一切なくミニギャラリーに言及するにとどまっております。美術館の美も記載がないのは何故なのであろうか。更新を機に無くしてしまう考えなのか危惧していたところです。美術館の沿革を読んでも記載はありませんが、昔区民の要請で作られた旨を読んだ記憶があります。(土門拳写真展にて)美術館を中心にした街づくりといった考え方もある。目黒区美術館は現在のスペースでは新聞社等の文化事業部が利用する機会が少ないのが現状。東京都内はバブル崩壊に伴い百貨店系美術館の閉館が相次ぎ人口比では少ない現状でニーズはある。目黒区美術館の利用が少ない理由は展示可能面積が中途半端に狭いことが原因していると新聞社の人に聞いた記憶がある。区民センターを更新して面積を広げれば場所としても都心に近く活用される機会が多いと思慮する。駅から遠い世田谷美術館は大手新聞社主催の展覧会を開催している。駅から遠く離れていても人が入るのは企画展示室が適当な広さがあり内容の良い展覧会が企画開催されていることまた環境も公園に囲まれている。目黒区は財政的に苦しい状況があるのは承知のことであり、都心に近いメリットを生かしマンションを定期借地権で分譲しその結果入ってくる収入で美術館を運営していく資金として利用をすれば優れた内容の展覧会を鑑賞する機会に恵まれる。文化事業での収益はそれ単体で出すことは難しい事業であり他団体の予算を利用して施設使用料である程度事業収益を得ることを目指した方が区民にとって重荷になることが少なくして優れた美術品に触れる機会を作ることができる。目黒では高層マンション分譲が直近でもされており、駅近で優れて立地を有していることを考えれば定期借地料収入を元に区民センター全体および特に美術館運営資金を捻出することを事業計画で可能ではないかと以前から考えていたものでマンション建築の専門家と詰めて行く必要があるものと思う。財団に資金がなくても、展示施設として適当な施設と認識されれば新聞社が展覧会開催の場所として利用が現在より促進される。この辺りはこの意見募集を知ってから時間がなかったこともあり新聞社に意見を聞いてさらに補足したいと考えます。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら、全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有し、区民の方々に親しまれてきており、新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p> <p>なお、本事業全体においては、財政負担軽減は課題の一つであり、財源確保も大切な視点ですが、運営に係る民間活力は、区民サービスの向上を目的として活用していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
96	<p>1:今の景観・敷地を維持、樹木伐採は無し、を希望 樹木の伐採はせずに今の景観(建物間の空間確保、樹木確保)、センター敷地を維持することを希望。p4の図にあるように、広い敷地内の中に空間を保ったまま施設が配置されているのは大変素晴らしいことだと思う。老朽化による問題があり現状維持が難しい建物は立て替えが望ましいと考える。しかし、高層の建物(6階以上)を建てる事に関しては反対したい。階数が足りない場合、費用の問題が軽減され、目黒区民の理解が得られるのであれば、武蔵野プレイスのように地下階のある建物を建設することが一つの選択肢になりうると思われる。地上階を増やすよりは地下階のある建物を選択肢として加えて欲しい。</p> <p>2:施設(機能)追加、下目黒小学校改築希望 p21(5)の内容はとても良く、概ね賛成。建て替える場合も、空間を確保しつつ、現在ある施設は全て引き継いで欲しい。自身で学習をしたい気持ち、仲間と寺子屋的な集まりをしたい気持ちがあっても、気軽に利用できる場所がほぼ無いように感じている。例として挙げられているように、学習室、ワークショップもできる多目的室やフリースペース等がある、区民が利用しやすい、つながりやすい環境を整えていくことを強く希望する。また、下目黒小学校の改築を希望する。</p> <p>3:目黒区らしい憩いの空間を希望 目黒区内には自然豊かな場所が多く残されてる印象がある。それがこれからも続くことを願っている。p23エに川を活用した憩いの空間(渋谷川)とあるが、これに関しては疑問がある。実際に訪れたが、”ビルに囲まれた敷地”という印象が強く、ベンチなどの休憩スペースが無かったため安らげる空間とは感じられなかった。これをそのまま参考にしないことを強く願う。</p> <p>4:p30ウに示されている案について 資金調達の面から、民間分譲マンションを建設する選択肢が選ばれるのであれば、①社会教育館側(p4参照)に配置し、形状を斜めにするなど圧迫感を感じない工夫がされた設計の建物を希望。</p> <p>5:柔軟な対応を希望 既存パターンありきで計画を進めることなく、区民の意見を柔軟に取り入れることを希望。例えば、資料p25～にあるパターン①と②の融合パターン(施設整備の方向性はパターン①、民間活力の活用はパターン②)を考えるのはどうか。既存の3パターンに縛られず、柔軟な対応の実行を強く願う。</p>	<p>新たな区民センター整備に当たっては、「区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)でも示していますように、改修も選択肢として検討しています。躯体を維持しながら改善できる内容とその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく、将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮した上で、大規模複合施設としての効果を最大限発揮できる最適な整備手法を検討します。なお、整備に当たっては、目黒川沿いであるという地理の特性を考慮したうえでの防災上の視点も不可欠だと考えており、敷地の効果的な活用を念頭に置きながらも、総合的に検討していきます。</p> <p>下目黒小学校については、築55年が経過し、更新に係る検討が必要となる時期に入っていることをとらえ、一体的に整備することで学校側が新たな区民センターを有効活用できれば、教育活動のさらなる充実が期待できます。また、放課後においても子どもたちの豊かな人間性を養うための取組の可能性が広がり、さらに、学校が地域の拠点としての機能を併せ持ち、児童や地域の方々とのかかわりの場になることは、子どもたちの育ちを含めた地域コミュニティの形成の観点からも有益であると考えられることから、一体的な整備を検討するものです。下目黒小学校の一体整備や周辺施設の集約化は、関係部署とも十分に調整しながら、施設サービスの向上につながるよう検討していきます。</p> <p>また、新たな区民センターにおいて、公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p> <p>なお、取組全体の過程の中での民間活力活用には、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討ではご意見にも留意し、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、整備規模、経費規模、民間活力活用規模のバランスを見極めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
97	<p>目黒は緑が少ないので、せつかく公園が広くあるので、生かしてほしいです。樹木はなるべく残してほしい。人々が散歩に来たくなるようなパークであり、そのパークの中に区民の活動を支える空間があるといいですね。区民の集う催し物、区主催でも一般区民団体が主催でも利用できて企画しやすいスペースになってほしいです。消費生活展では、部屋の使い方や来場者への案内誘導に毎年頭を悩ませております。また三軒茶屋のキャロットタワーにあるキッチンと多目的スペースが合わせて利用できる部屋は、多様な催し物に使えていいと思います。都内にホールが少ないので、ここに中型のホールができるのは、利用希望者が多いのではないかと思います。財政面では民間活力の利用はあると思いますが、将来の人口減少と高齢化、50年先の建物の更新や目黒川沿いにあることの土地の安全性、最近の台風や集中豪雨での水害を考えると、高層タワーマンションを建てるのは不安であり反対です。あとコンセッション方式など行う時、契約は開示をお願いしたいと思います。</p>	<p>新たな区民センターにおいて、公園はこれまで以上に大きな役割を果たすと考えています。目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p> <p>本事業を実現するには財政負担も課題であることから、コンセプトの実現と財政負担、周辺環境への影響など、様々な要素を考慮しながら最適なバランスを図っていきます。</p>
98	<p>1 今回の意見募集は「検討素材」へのものなので、「意見」ばかりではなく、「検討」をも加えながら「意見」を述べていくことが当然である。特に一連の研究としては必須のステップであるにもかかわらず省略され、政策的判断で処理されている箇所についてはそうである。「検討」と「意見」とを区別して記述することが望ましいので、できるだけそのように記述するものである。</p> <p>2 まず、1974年7月に竣工した区内有数の大規模複合施設である目黒区民センターの老朽化、陳腐化が進んでいるとして、なぜこれを再建しなければならないのかという議論が欠けている。2019年11月の時点では45年間を閲しているということであるが、この間にはめぐろ区民キャンパスという大規模複合施設が建設され、目黒区は二つの大規模複合施設をもっている。したがって、老朽化、陳腐化が進む目黒区民センターは撤去し、その跡地は低床の雨水調整池を兼ねた緑地にできないか、するべきではないかという議論があつて当然である。この段階では、目黒区民センターを構成する個々の施設は近隣の適地を求めて移転することとする。</p> <p>3 目黒区民センターを構成する個々の施設が近隣の適地を求めて移転することが困難な場合に初めて、目黒区民センターの再建が議論の対象となる。この場合、現況建物の修理・補修ということとは問題にならない。この点については今回の「検討素材」の第1章3の(1)、(2)にほぼ尽くされている。これに更に、建物全体の中で社会教育館棟と勤労福祉会館棟を分け目黒美術館棟を加えて全6棟とする、床の仕様や階高の欠陥について段差・二重床などの用語を使って分かりやすく記述する、同じく床の仕様や階高の欠陥についてこれが今後の問題であるばかりでなく現段階の問題でもあることを記述する、地下駐車場ないしタワー式駐車場の必要を記述する、目黒川について河川管理者による改修計画に触れる、運営面で食堂がすでに撤退している、を追加すれば客観性のある、完全な論述となる。</p> <p>4 次には、目黒区民センターの再建を目指して、目黒区民センターを構成する個々の施設とその機能をどのように整理できるかが議論の対象となる。いま、汎をいとわず、現況を表形式で詳細に記述してみる。(一部省略)「検討素材」はもちろんのこと様々な資料を整理し集約するとこのようになる。決して完璧とは言わないが、この程度の検討素材?!がなければ、何も見えて来ないであろう。逆に、目黒区民センターの様々な施設について立場を異にする場合でも、社会教育館棟に存在する中小企業センターには事務室・相談コーナーもなく貸室のみであるので、存在意義に乏し</p>	<p>区民センターには、全区施設、地区施設、住区施設が設置されており、また様々なイベントが開催される場としても区内外から親しまれています。これだけ多くの役割を果たすことのできる同等規模の代替地は区内全体にもありません。区全体での施設配置のバランスからも、区民センターの敷地は、現施設の各機能の継承や縮充を基本としながら、区民活動の今後の予測を踏まえた施設サービスの提供場所として必要なものと認識しています。</p> <p>新たな区民センター整備に当たっては、効果的な敷地活用や効率的な維持管理のほか、運営面での効率化を図るなど、その後の区有施設見直し全体のモデルケースとなることを意識しながら取組を進めていきます。</p> <p>あわせて、「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けた本事業の検討に関する団体・区民からの意見聴取等については、区有施設見直し全体への効果やスケジュールにも留意しながら、適切なタイミングで的確な手法を選択し、お知らせしていきたいと考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>いことがわかるであろう。あるいは、消費生活センターが社会教育館棟と勤労福祉会館棟に分かれているため機能をそがれていることも明らかであろう。そして、図書館の来館者が他の施設に比して桁違いに多いということも否定はできない。そのほか多くのことが見て取れるであろう。そして、それを是とするか、非とするかの議論が可能であろう。</p> <p>5 前節の表ではスペース都合で記載できなかったが、本来は、各施設の担当所管が記述されるべきであった。いまこれを詳細に記述することはできないが、大局的に見て、教育委員会所管の施設とそれ以外の施設つまり首長部局所管の施設に大別できる。すなわち教育委員会所管の施設は社会教育館、図書館である。他は、首長部局のいずれかの所管である。したがって、この大別に準じて建物の配置とフロア構成を考えるのが最も合理的である。その場合、緑が丘文化会館に準じて本館・分館などと名付けることも考えられる。さらには、教育委員会所管の施設が近隣の適地に移転する場合にも、本館・分館といった呼称によって、目黒区民センターの一体性をある程度保つことができるであろう。</p> <p>6 本「検討素材」は基本的なデータの発掘にかけるところがあるにも関わらず、方向性をパターン化することに急ぎすぎ、特にそのパターンを単純に民間活力活用の程度と態様に結び付けるところがある。この点はいくつかの説明会で批判を浴びたところであるので、再論はしない。</p> <p>7 今回の意見募集の後、関係諸団体を代表する人を含めて、区民が参加して「基本的な考え方(素案)」を議論する機会が欲しい。時間はあまりない。手続きが簡単で自由に参加できるワークショップのような形式が望ましい。(終)</p>	
99	<p>私たち運営委員会は、目黒区男女平等・共同参画センターの運営に区民の意見を反映するため、1993年に発足いたしました。運営委員会は一般区民利用者やセンター利用団体の代表者で構成され、講座や男女平等フォーラムの企画、情報誌「であいきらり」の編集等に参加しています。今回、「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材に対しまして、運営委員会として以下の通り意見を提出いたします。</p> <p>第2章「新たな区民センターに向けて」の中、新たな区民センターに求められる機能についての記述があります。</p> <p>ア 新たな価値観の中で区民が自発的に活動を生み出し、周囲とのゆるやかなつながりの中で実践できる空間</p> <p>【主体性・共有性の促進】(いきいきと)</p> <p>イ 多様な価値観を持った人々が積極的に交流することで寛容さを育める空間【多様性の尊重】(じぶんらしく)</p> <p>ウ ライフステージに応じて柔軟な働き方・暮らし方・過ごし方を選択できる空間【柔軟性・可変性・安全性への対応】(しなやかに、すこやかに)</p> <p>上記ア・イ・ウは、「目黒区男女が平等に共同参画する社会づくり条例」で定めた、性別に関わらず、すべての人々の人権が尊重される豊かな地域社会を実現することをめざすという目的に即している機能だと考えております。特にイにあります、○世代や性別、国籍に関わらず、誰もが参加できる活動の場を設け、多様な価値観に触れる機会を生み出すこと《つどう、つながる》○多様な人々との交流を通じて、考え方の違いを理解すること《つながる、まなぶ》というコンセプトは、</p>	<p>男女平等・共同参画センターについては、区民活動スペースとしての会議室機能のほか、図書・資料機能を有し、また実施している講座が区民センターの施設が実施している講座とも共通の性質があるなど、区民センターと親和性がある施設だと考えています。新たな区民センターの未来像(コンセプト)の実現に向けた機能において、区民活動の変化予測をもとに、多様性の尊重(じぶんらしく)も大切な考えの一つとしており、この観点の実現に向け、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、男女平等・共同参画センターを含めた検討は深めていく必要があると認識しています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>各施設やフロアごとに分断された機能ではなく、誰でもオープンな空間で、様々な価値観と触れることができる施設を実現する重要なポイントだと評価しております。現在、中目黒スクエア内にあります男女平等・共同参画センターにつきましては、性別や年齢、国籍等に関わらず多くの方が多様な価値観に触れる機会を生み出すという目的を実現するため、また区民の多様性を尊重するという意識を醸成するため、新たな区民センターの中にその機能を有することを希望いたします。</p>	
100	<p>いつも目黒区民のために、ご尽力いただき、ほんとうにありがとうございます。先日のまちづくり懇談会に出席し、資料をいただきました。区民センター改築計画について、以下の通り要望をお伝えします。</p> <p>1、児童館をなくさないでほしい 近隣自治体で児童館を乳幼児や中高生に特化した形に変えたり、児童館をなくしたりした自治体があるが、小学生の放課後の居場所がないという声を聞く。放課後の過ごし方、居場所が選択できることは、学童期の子どもの健全な育ちに大きく寄与することは明白である。体を動かして自由に過ごせる、友だちと遊べる屋内空間や屋外空間を残してほしい。図書館の子どもスペースのイメージがあったが、今の区民センター図書館のように、子どものスペースが充実しているのはたいへん望ましい。ただ、にぎやかに遊べる空間が子どもには必要である。体力維持や、人間関係づくり、居場所づくりの観点からも、児童館は必要である。</p> <p>2、児童館併設型放課後学童クラブをなくさないでほしい 子どもの健全な育ちを支えるには、放課後学童保育クラブは大変大きな役割を果たしている。小学校内の学童クラブを拡張の方向と聞いているが、小学生の増加、共働き世帯の増加により、放課後学童保育クラブの需要は増え続けると考える。まだ私立小学校や特別支援学校に通う子どもたちが通うためには、当該小学校の生徒しか通えない小学校内学童保育クラブでは、不十分である。改築計画の中に、専有施設のある学童保育クラブを組み込んでほしい。</p> <p>3、下目黒小学校及び田道小学校の改築もプランにいれてほしい 小学校改築の際の仮校舎が最低でも各学校一年程度は必要であると考えられるため、区民センター改築計画とあわせて、下目黒小学校と田道小学校の改築も行ってほしい。その方が、結果的に目黒区の財政負担も減るのではないかと考える。プールなどを小学校と合同の施設にするなども考えられると思う。また小学校も合わせて改築する際は、小学校内に学童保育クラブ専有スペースを確保してほしい。</p> <p>4、プールやテニスコート、各施設の利用料の適正化 民業圧迫にならないよう、周辺価格から考えて適正に、つまり値上げを考えてよいのではないか。また、個人利用についても在住在勤在学者との値段の区別をつけられればよいと思う。クラウドファンディング等を行い、利用者が改築のためにお金を出し合うのもよいと思う。</p> <p>5、ホールは、GTホールやパーシモンホールなど、立派なものが多数あるので、なくしてもよいのではないか。 会議室等も、用途を限定せず、集約化するべき。あるものを全部残すのではなく、集約化できるものについては、集約化する決断をしてほしい。以上、雑駁ではありますが、わたくしの考えをお伝えします。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>	<p>学童保育クラブについては、平成30年3月に公表した「目黒区人口・世帯数予測」などを踏まえ、将来的な需要など総合的に判断しながら、放課後子ども総合プランの本格実施を見据えて、施設条件等が整った小学校内に順次整備していきます。小学校内に学童保育クラブが整備できない場合は、地域サービスの公平性も踏まえ、区有施設や民間活力の活用による整備なども検討していきます。児童館については、目黒区民センター施設の全体の見直しを踏まえつつ、その機能や役割について、検討していきます。</p> <p>下目黒小学校については、築55年が経過し、更新に係る検討が必要となる時期に入っていることをとらえ、一体的に整備することで学校側が新たな区民センターを有効活用できれば、教育活動のさらなる充実が期待できます。また、放課後においても子どもたちの豊かな人間性を養うための取組の可能性が広がり、さらに、学校が地域の拠点としての機能を併せ持ち、児童や地域の方々とのかかわりの場になることは、子どもたちの育ちを含めた地域コミュニティの形成の観点からも有益であると考えられることから、一体的な整備を検討するものです。下目黒小学校の一体整備や周辺施設の集約化は、関係部署とも十分に調整しながら、施設サービスの向上につながるよう検討していきます。</p> <p>新たな区民センターでは、ホールも含めた様々な機能について、利用用途を固定化せず、多様な用途に活用できる施設となるよう検討していきます。</p> <p>また、従来、区では施設ごとに、それぞれの設置目的に沿った施設サービスを提供してきましたが、近年、そうした施設単位にとらわれない多様な区民活動が展開されています。貸室についても、ご意見のとおり機能に着目し、効率的かつ効果的な運営を目指していきます。周辺類似施設との均衡、財源確保の多様性も含め、多角的に検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
101	<p>区有施設見直し計画 令和元年9月案を拝見しました。新たな区民センターの実現に向けて留意すべき視点ではパターン①②③と財源をどう確保するかを重点的に検討する必要があると記されています。</p> <p>パターン①の場合は 区民センターとエリアが一層して生まれそうですね。かなりの変化が見受けられそうで、区民としては不安です。 問題点ー変化大、土地利用の平面面積は今よりかなり小さくなる。民間活力に頼る場合はどういう風に進行するのか明瞭にしてほしい。建設期間が長くなる。工事期間中、利用不可となるスポーツ施設。利用しての方々の健康管理。特にご高齢の方々。子供達。他の機関を活用といっても、どこに行けば良いのか？ 下目黒小学校は立て直しなのか、なくすのか。新緑の景観の縮小。高層化する案なら目黒三田通り側からの景観の変化。富士見坂から富士山は見えなくなるのでは。屋外プールはなくすのか。緑の中の屋外プールは他にはない唯一の区民センタープールではないのか。図書館、ホール、美術館、プール、体育館は。等々</p> <p>パターン③の場合は、今の建物を耐震補強、修理をして使用。 問題点ー耐震補強できるのか？</p> <p>パターン②は ①と③中間策ですね。 問題点ー斬新さにはかける。</p> <p>結論ー耐震や老朽化もあるとは思いますが、全く変わらないというわけにはいかないとはわかります。ただ、建築は新しくするなら100年は少なくとももつ建築。建築家も有名なかたにお願いして、目黒のシンボルとするのが良いかと思えます。ただ、問題点は留意しつつ、区民と総意でウィンウィンな策案を常に望みます。よろしくお願ひいたします。より良い目黒区になっていくことを、区民として思っています。いつも、素敵なお区民センターエリアを提供して下さりありがとうございます。</p>	<p>取組全体の過程の中での民間活力活用には、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討では、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、区民センターのコンセプトの実現や財政負担、周辺地域に与える影響など様々な要素を考慮しながら、最適な手法を選択していきます。</p> <p>また、本事業においては、より丁寧に区民の皆さまにご意見をお伺いすることで、地域に親しまれる施設づくりにつなげたいと考え、素案の作成前の検討の初期段階に「区民センターの見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)を作成・公表したものです。今後も、新たな区民センターの検討において、適切なタイミングで、的確な方法により区民への説明や意見聴取、意見反映等に努め、より良い施設づくりにつなげていきたいと考えています。</p>
102	<p>①資料9ページ3区民センターの現状から見える課題より・・・</p> <p>築45年ではまだもったいないと思うが、ハード面での課題が顕在化、とは残念なこと。どれを見ても改修不可能な内容なので改築か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強が不可能な場所にあること、エレベーターが不足していること、外壁に断熱層がないこと、浸水対策用の対応がないこと、地下の電気・機械設備・非常用電源・蓄電池への被害対策がないこと <p>上記のようなハード面に対する課題は、設備等の老朽化だけではなく当初の計画にも問題があったのでは。目黒川に沿った地域の水害対策は必然。センターの位置は、目黒区でも一番海拔の低い場所であるから想定外はあってはならない。下記のような水害の発生が予想される。①河川の氾濫(上流地域の大量な降雨等が集まる場所)、②超大型台風による高潮(東京湾からの海水が逆流してくる)、③地震による津波(東京湾から海水が逆流してくる)</p> <p>目黒川調節池はあるが、温暖化や都市化が進んで雨量は想像以上の増えていることから安心はできない。そこで、やむを得ずこの地に皆が集うセンターを改築する場合は、まず水害対策を万全にすること。そしてハード面でもソフト面でもバリアフリーを。美術館と周りの自然、土、樹木を残してほしい。・・・以上です</p>	<p>昨今の災害の状況を踏まえ、新たな区民センターでは防災機能充実の観点も不可欠だと認識しています。防災対策としてどのような機能を有すべきか、都市計画上の課題や目黒川沿いに位置しているという地理の特性も踏まえて検討していきます。</p> <p>あわせて、新たな区民センターにおいては、目黒川や公園など、施設以外の部分も含め、居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
103	<p>私は三十年近く目黒美術館のラウンジと広報のお手伝いをしていますが、今回美術館がなくなるとお聞きしてびっくりしました。もしパターン①になった場合、美術館はその中に組み込まれ、書かれている民間活力の介入もあり得るような事にでもなるのでしょうか。ここでは今後美術館がどんな形で残るのか分かりませんでした。新しいプロジェクトを推進するために少しでも広い土地を確保した方が有効のようですが、そのため美術館そのものの建物を無くすのは悲しい事だと思います。私はパターン②26頁が良いと思いますが、古いものを残していくためには修繕費がかかると26頁に数字を挙げて書かれていますね。それも解りますが、新しく巨大な施設を造るには莫大な資金が必要になるのではないのでしょうか(その数字は全然書かれていませんが)。目黒美術館は世田谷区等と比べて小さな規模の施設だと思いますが、目黒ならではの企画を展示し、時には美大の生徒さん達にも支持されてきたと思います。また美術館には大切な収蔵品もたくさんあると伺っています。今あるものを大事に育み充実させていく努力を是非お願いしたい次第です。桜の季節には外国の人たちの来館者も増えています。美術を愛する方々の支持を受けて長い間存在してきた美術館。「香り高いまち」にすると14頁に書かれています。その志向が活かされることを心から期待しています。どうぞよろしくお願い致します。</p>	<p>区民センター見直しでは、美術館も含め、区民センターの各施設がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら全体の検討を進めています。美術館は、展示スペースの他、美術活動を身近に理解し活動するワークショップスペース、創作活動の発表の場としての区民ギャラリーなどを有し、区民の方々に親しまれてきました。新たな区民センターにおいても、これまで以上により多くの方々にとって身近な美術館となるよう、限りある敷地の中で、複合施設全体のバランスを図りながら、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p>
	<p>・区民と利用者の声より、民間企業の意見を優先？これまでの検討過程で利用者の声はまだ直接聞いてはいない。新しい区民センターにはこういう施設が入ると具体化してから聞いた方が意見を出しやすい、というのが理由だがゴマカシである。目黒区は民間業者から意見聴取(マーケットサウンディング)を行っている。民間にできることは民間に委ねるという区有施設見直し方針によりPPP(Public Private Partnership、公民連携)事業を行うのが目的である。区が選定したPWCアドバイザーとは、2018年度は1950万円、2019年度は1000万円増の予算で契約した。民間としてどんなものなら収益が得られるのか。新しい区民センターにはこういう施設が求められているという目黒区としての考え方をもって、バランスをとりながら決めていくと区は説明するが、実際には民間企業の市場性が優先される。目黒区は、住民自治に向けた住民参加システムの構築を課題として重要視している自治体なのであり、区民と施設利用者の声を優先して聞くべきである。公共施設は区民生活を支える施設であり、今後のあり方の検討は住民自治の確立に向けた住民参加で進めるべきである。</p> <p>・区民の暮らしより、民間業者の収益を優先？区民センターはすでに大きな9つの複合施設である。勤労福祉会館・中小企業センター・消費者センター・美術館・体育館・児童館・学童保育・社会教育館・図書館、どれも区民生活を支えてきた施設だ。これに隣の下目黒小学校を含めて改築すれば区の負担は相当軽くなり実現可能性は高いと結論付けた。一方、区民の切実な要求となっている高齢者住宅などの増設については、どこまで含めるかは建築延床面積に限りがあるので、はっきり除外しようとしている。改築後の施設利用料は、受益者負担を強調して値上げされることになりかねない。民間主導で受益者負担が進むと、格差社会のもとでは選択権が奪われることも十分配慮すべきである。定期借地の事例として渋谷区役所の建替えも紹介しているが、延床面積が民間6割・区民4割になりかねず、民間収益施設中心のプロジェクトに区が協力するパターンになっている。建設費の高騰や区民センター機能を民間が補完することも考えられるから、民間の収益を考えないと成立しないと区は明言した。現在の複合施設個々の設置目的を十分にいかす道が最も大事であり、民活路線による設置目的の変質は許されない。巨大マンション化など民間の大儲けに区民の財産である区有地を提供することに区民が違和感を持つのは当然である。</p>	<p>区民センター見直しの取組については、より丁寧に区民の皆さまにご意見をお伺いすることで、地域に親しまれる施設づくりにつなげたいと考え、素案の作成前の検討の初期段階に「区民センターの見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材(令和元(2019)年9月)を作成・公表したものです。今後も、新たな区民センターの検討において、適切なタイミングで、的確な方法により区民への説明や意見聴取、意見反映等に努め、より良い施設づくりにつなげていきたいと考えています。</p> <p>従来、区では施設ごとに、それぞれの設置目的に沿った施設サービスを提供してきましたが、近年、そうした施設単位にとらわれない多様な区民活動が展開されていることから、区民センターの見直しでは機能に着目し、区民センター全体で新たな区民活動に応え続けていく必要があると考えています。その手段として民間活力を活用し、周辺地域への影響を多角的に踏まえつつ、将来にわたり区民の活動水準の向上につながる空間となることを目指していきます。</p> <p>なお、民間活力には、取組全体の過程の中で、設計や建設、維持管理や施設運営など、様々な活用方法が考えられます。今後の検討では、区の施設においては縮充を図りながら民間活力を効果的に活用するための手法を検討し、整備規模、経費規模、民間活力活用規模のバランスを見極めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
104	<p>自治体の第1の仕事は、区民の福祉の増進である。区民と施設利用者の利益を最優先にすべきである。</p> <p>・区民の生命より、大規模開発を最優先？2018年3月都知事は、震度6強以上で崩壊の危険性がある建物として区民センターの本館棟、ホール棟を公表した。耐震診断の結果が判明したのは1998年であり、目黒区が21年も放置した責任は重大だ。区民の生命を最優先委考え、直ちに耐震補強工事を行うべきである。着工まで今後さらに数年、崩壊の危険性があるまま使用するの、民活による大規模な開発を最優先させているからである。区民センター見直しは、区有施設の見直しのリーディングプロジェクト＝モデルケースと位置づけている。2018年度の課題整理で試算した3つのパターンの費用比較によれば、大規模改修した時の20年間(2037年まで耐用年数65年)の経費は204億円、35年間(2052年まで耐用年数80年)では351億円である。青木区長は、この額を区は財政が厳しくて出せないと議会答弁しているが、緊急財政対策の時と同じく根拠はない。下目黒小の建て替えを一体的にすすめるパターン①が最も実現性があるとする整理の仕方は、パターン①への誘導である。パターン③大規模改修は区財政の負担が大きくてダメと受け取れる。実際、この日の質問に対し、下目黒小学校の改築を含む全面改築のパターン①か、区民センターと美術館だけの全面改築のパターン②のどちらかになってほしいと区は明言した。長寿命化の道を真剣に検討すべきである。③大規模改修は区財政の負担が大きくてダメという根拠は、依然として示されていない。財源的に不可能である根拠を示すべきである。</p> <p>・住環境を守る絶対高さ20m規制より40m緩和を優先？区民センター・美術館の絶対高さ規制は20mだが、敷地が1万㎡を超えているので40mまでの緩和規定を適用できる。現在の区民センター・美術館は、許容される容積率の50%台しか使っていないが、建て替え後、目いっぱい100%使うとオープンスペースが狭くなる。高さを高くし延床面積とオープンスペースを確保するのとどちらがよいかを検討中であると言う。住環境を守るために絶対高さを区内全域に設けていることはかつての区議会超党派の合意であり守りぬくべきである。よって、区が自ら40mの緩和規定を適用すべきではない。</p> <p>・住民自治より、区有施設の統廃合？区は、高齢者の空間、高齢化への対応施設も必要だが、生涯現役時代もふくめ、だれでも利用でき用がなくても来てよかったと思えるスペースがあるようにすると言う。周辺の施設を複合化し、統廃合などで機能をまとめれば、身近にあった施設がなくなり遠くなる。高齢者をはじめ区民にとって不便になる。改築に合わせて公設公営の施設が廃止されて民設民営にすることを保育園や学童保育で推進してきた。これまでの施設が似て非なるものに変質しかねない。縮充という表現を使っているが、図書館などの面積を縮小するということである。区有施設全体で187建築物・326施設あり、区有施設見直し計画に基づく集約化は不可欠であると区は明言した。長い期間をかけると、区有施設見直し計画のリーディングプロジェクト・モデルケースとしての役割が果たせないとも言ったが、目先の収益を求める民間企業に丸投げして、公的サービスの産業化を急ぐのではなく、住民自治の確立に向けた住民参加で進めることこそ50年100年先のまちづくりをも展望できる不可欠の道である。その他全国先行事例の問題点の整理も十分に行うこと。・・・原宿警察、渋谷区役所、豊島区役所(黒字のハズが50億円持ち出しに)、批判が起こっている事例として調査研究すべきである。</p>	<p>本取組は「区有施設見直し計画」(平成29(2017)年6月)でリーディングプロジェクトと位置付けており、その後の区有施設見直し全体のモデルケースとなることを期待されている点にも留意しつつ、区民センターだけではなくその他多くの区有施設の更新に向けた視点も持ちながら最適な施設整備を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
105	<p>区民センター、社会教育館、ホール、体育館、図書館、児童館は老朽化しているので、改修又は改築が必要だと思えますがエリアを広げて民間事業者の参画は望ましくないと思えます。現在の区民センターは緑豊かで目黒川ぞいの桜や美術館など情緒性に富み、のどかな感じがとても良いと思えます。山の手の昔っぽさも大事ではないでしょうか。近代化、大型化、商業化でどこも同じ様な雰囲気のみで味けない、目黒はそんなふうになってほしくないです。現に目黒駅前にopenした大型ビルは寒々しい感じがします。私は目黒で生まれ育ち、移り変わりを見てきました。他の区には無い目黒の良さを大切にしてください。個人的には、母校である下目黒小学校が、大きな施設に組みこまれてしまうのはかなしいです。目黒美術館もこじんまりしていますが、個性的で人気のある美術館です。まだまだきれいだし、あの感じをこわしてほしくないです。</p>	<p>美術館については、これまで果たしてきた役割を踏まえながら、目黒川や公園に隣接する区民センターと一体の敷地にある環境を活かしながら、複合施設全体のバランスの中で、区として最適な空間づくりを進めていきます。</p> <p>なお、隣接する下目黒小学校については、築55年が経過し、更新に係る検討が必要となる時期に入っていることをとらえ、一体的に整備することで学校側が新たな区民センターを有効活用できれば、教育活動のさらなる充実が期待できます。また、放課後においても子どもたちの豊かな人間性を養うための取組の可能性が広がり、さらに、学校が地域の拠点としての機能を併せ持ち、児童や地域の方々とのかかわりの場になることは、子どもたちの育ちを含めた地域コミュニティの形成の観点からも有益であると考えられることから、一体的な整備を検討するものです。下目黒小学校の一体整備や周辺施設の集約化は、関係部署とも十分に調整しながら、施設サービスの向上につながるよう検討していきます。</p>